

自然学校

活動プログラム指導資料



兵庫県教育委員会

はじめに

「自然学校推進事業」は、本県が昭和62年に開催した「こころ豊かな人づくり懇話会」において、「人は自然とのふれあいの中で自然の神秘、優しさ、恐ろしさなどに感動し、豊かな感性、問題解決能力、粘り強さなどを培うとともに、人とのふれあいを通して、生きる喜びや苦しみを知り、思いやり、協調性、社会性などを身に付ける」と提言されたことを基本理念に、昭和63年度に始まりました。平成23年3月には、「兵庫型『体験教育』は、子どもたちの豊かな人間性や社会性の育成、意欲の喚起をめざし、本物に感動し、絆に気づき、感謝する体験活動を多くの大人がかかわって展開するものである」と基本的な理念がまとめられるなど、これまで兵庫県の教育の重要な柱として、着実に成果を積み上げてきました。

自然学校は、「学習の場を教室から豊かな自然の中へ移し、児童が人や自然、地域社会と触れ合い、理解を深めるなど、長期宿泊体験を通して、自分で考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する力や、生命に対する畏敬の念、感動する心、共に生きる心を育むなど、『生きる力』を育成すること」を趣旨として実施しています。

平成29年3月に告示された小学校学習指導要領総則においても、「児童が生命の有限性や自然の大切さ、主体的に挑戦してみること」と示されるなど、自然学校において、児童の主体性を育むプログラムの重要性が益々高まっており、その計画・実施が求められているところです。

こうした中、自然学校の30年目の節目である平成29年度は、児童、保護者、教員を対象とした「自然学校推進事業30年目の評価・検証に係る質問紙調査」を実施し、自然学校の充実に向け、4つの視点で分析を行いました。さらに今年度は、児童に感動体験をもたらす魅力的なプログラムや児童の主体的な活動を促す取組等を紹介する指導資料を作成しました。本指導資料においては、自然学校の趣旨である「生きる力」の育成の中でも、児童の「主体性」と「感動体験」を柱に、自然学校の目的（ねらい）を実現するため、児童の主体性を育み、児童に感動をもたらす活動例を掲載しています。

各学校においては、更なる内容の充実を図るため、本指導資料を参考とし、これまで行ってきた成果をもとに、自然学校の一層の充実に向けた取組がなされることを期待します。

平成31年3月

兵庫県教育委員会

● 目 次

はじめに

自然学校推進事業のこれまでのあゆみ

I 自然学校を更に充実させるために

- 1 児童の意識の変化に対応した「ゆとりある自然学校」の必要性 1
- 2 自然学校プログラム充実に向けた留意点と改善に向けた「4つの視点」 4
- 3 自然学校の質的向上の柱～児童の主体性と感動体験～ 5
- 4 児童の主体性を育み、感動体験のあるプログラムに向けて 6
- 5 「自然学校充実に向けた4つの視点」から、児童の「主体性」を育み、
「感動体験」のあるプログラムの作成・実施に向けて
視点1 8
視点2 10
視点3 12
視点4 14

II ねらいを達成し、プログラムを充実させる活動例

- 1 活動例一覧 16
- 2 活動例の見方 18
- 3 活動例 20

III 資料編

- 1 自然学校推進事業30年目の評価・検証に係る質問紙調査について 40
- 2 自然学校の実施状況について 47
- 3 県立南但馬自然学校の取組から見た自然学校の成果 48
- 4 自然学校関連冊子について 50
- 5 体験活動実施施設紹介 51

自然学校推進事業のこれまでのあゆみ

兵庫型「体験教育」の基本的な理念

兵庫型「体験教育」は、子ども達の豊かな人間性や社会性の育成、意欲の喚起をめざし、本物に感動し、絆に気づき、感謝する体験活動を、多くの大人がかかわって展開するものである。

（昭和62年度） ころ豊かな人づくり懇話会の設置

（昭和63年度） 5泊6日の「自然学校」のスタート

小学校 113校（7,986名）

（平成3年度） 全公立小学校で自然学校実施

小学校 787校（62,578名）・中学校 7校（1,145名）

「心の教育」の充実を図る兵庫の教育

- （平成7年1月） 阪神・淡路大震災の発生と教訓
- （平成9年10月） 「心の教育緊急会議」の提言

（平成9年度） 自然学校推進事業検討委員会の設置

- 豊かな自然の中で5泊6日のゆとりをもって、学校では得難い様々な体験に取り組んでいることが評価される。
- 生命を尊重し、教科活動と関連した児童の主体的な選択による活動のあり方や家庭・地域と連携を深める新たなプログラムの開発等の必要性が指摘される。
- 非日常的な体験活動を重視したゆとりあるプログラムの設定等、活動内容の改善が指摘される。

（平成19年度） 自然学校評価検証委員会の設置

小学校 814校（53,473名）

- 「豊かな自然の中で、学校では経験できない自然や社会等の様々な体験活動を通して、豊かな人間性や問題解決能力などを育成する人間教育の場として、『自然学校』の教育的役割は益々重要性が増してきており、一層の充実に向けた取組が大切である」との評価がまとめられる。

＜自然学校の一層の充実を図るための6つの方策＞

- | | |
|---------------------------|-------------------------|
| 1 自然学校と他の教育活動との関連を図る取組の充実 | 2 事前・事後の学習活動の一層の充実 |
| 3 学校では得難い体験プログラムの一層の充実 | 4 社会性や自立性等を育むための集団活動の充実 |
| 5 子どもの成長過程を踏まえた体験活動の充実 | 6 家庭や地域との一層の連携を図る取組の充実 |

（平成21年度） 環境体験事業の全県実施 自然学校の実施期間を4泊5日以上に変更

（平成23年度） 兵庫型「体験教育」評価検証委員会

- 小学校から高等学校における各体験活動が、それぞれの発達の段階を踏まえた目的・ねらいをもって、体系的に進められていることが評価される。
- 各体験活動に共通する特徴を、「本物に出会う感動体験」、「絆に気づき、感謝する体験」、「多くの大人がかかわる兵庫型『体験教育』」の3つにまとめた。

（平成29年度） 自然学校推進事業30年目の評価・

検証に係る質問紙調査について

小学校 752校（48,693名）

- 自然学校30年目を迎えることから、小学校5年生とその保護者に対する質問紙調査を実施し、充実に向けた4つの視点で分析した結果をリーフレットにまとめた。

I

自然学校を更に充実させるために

1 児童の意識の変化に対応した「ゆとりある自然学校」の必要性

児童の姿① 自然学校開始から10年（平成9年）

自然学校が開始されて10年が経過した、平成9年の「心の教育緊急会議」では、変化の激しい社会にあって、物質的な豊かさや便利さの中で生活する一方で、「ゆとり」のないあわただしい生活を送っている当時の児童の現状を、以下のように指摘しました。（一部抜粋）

当時の児童の様子

昆虫などの生き物と接触する機会が減少し、日常の生活の中で生命あるものを身近に感じる事が少なくなっている

学校教育で対応できない精神面、心理面での専門的ケアの必要な子どもが増えている

情報化の進展は、創造的な活動の展開を容易にした一方で、人間関係の希薄化や直接体験の不足など、深刻な教育問題を生み出している

学校では、教職員がゆとりを持って子どもと接する時間が少なく、多様な子どもたちに十分に対応しきれない場合がある

親子ともに時間的にゆとりのない生活の中で、触れ合いの機会が減少し、社会で生きていくために必要な規範意識が十分に身に付いていない

ゲーム機器を中心とした遊びが増え、生々しい感情や言葉のやりとりから、他人の心の動きを感じる機会が少なくなっている

感動体験プログラム構想委員会 「感動体験の必要性」（平成9年）

子どもたちが、やさしく、たくましく、豊かな人間性を築きながら、目標を持って、生き続けることができるよう生きる力を育むためには、今こそ、自然や社会に触れることによって、生きることと一体化した体験となりうるような感動的な体験の機会と場を、大人たちがつくり、守っていくことが必要である

こうした課題を踏まえ、「感動体験プログラム構想委員会」では、感動体験の必要性を以下のように指摘しました。



大人たちがつくり、
守っていく「機会」と「場」

生きることと一体化した体験と
なりうるような

社会

「感動的な体験の機会」

自然

生きる力を育む

児童の姿② 自然学校開始から20年（平成19年）

20年目に当たる平成19年に設置された「自然学校評価検証委員会」では、子どもたちが地域で活動する機会が減少し、社会性が身に付いていない、直接体験が不足しているといった課題に加え、以下のような新たな問題も示されました。

児童を取り巻く新たな問題



人間関係がうまくつくれず、集団生活に適応にくい子どもが増加傾向にある

「インターネット社会」におけるいじめ問題

自然学校評価検証委員会（平成19年）

<テーマ>

自然等との感動的な出会い、集団での学びと連帯感、社会的自立へのステップ

「自然学校の一層の充実を図るための6つの方策」

- | | |
|---------------------------|-------------------------|
| 1 自然学校と他の教育活動との関連を図る取組の充実 | 2 事前・事後の学習活動の一層の充実 |
| 3 学校では得難い体験プログラムの一層の充実 | 4 社会性や自立性等を育むための集団活動の充実 |
| 5 子どもの成長過程を踏まえた体験活動の充実 | 6 家庭や地域との一層の連携を図る取組の充実 |

小・中学校学習指導要領では・・・

体験活動と、集団宿泊活動の実施が示されています。



〔総則〕

- **体験活動を重視**し、家庭や地域社会と連携しつつ体系的・継続的に実施できるよう工夫すること。

〔小学校特別活動〕

- 小学校段階においては、自然の中での**集団宿泊活動を重点的に推進**することが望まれる。
- 集団宿泊活動については、（中略）学校の実態や児童の発達の段階を考慮しつつ、**一定期間（例えば1週間（5日間）程度）にわたって行うことが望まれる。**

児童の姿③ 自然学校開始から30年（平成29年）

進化した人工知能が様々な判断を行ったり、身近な物の働きがインターネット経由で最適化されたりする時代の到来が、社会や生活を大きく変えていくとの予測がなされています。

幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の 学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）より

- 学ぶことと自分の人生や社会とのつながりを実感しながら、自らの能力を引き出し、**学習したことを生活や社会の中の課題解決に生かしていくという面には課題**がある。
- 豊かな心や人間性を育んでいく観点からは、子ども達が様々な体験活動を通じて、**生命の有限性や自然の大切さ、自分の価値を認識しつつ他者と協働することの重要性などを、実感し理解できるようにする機会が限られている**との指摘もある。

「現代の児童が抱える課題」に対応できる、「自然学校のあり方」が求められています

充実のポイント

その1 時間的・精神的な「ゆとり」を大切にしましょう。



ゆとりある自然学校って ということなの？

ANSWER

自由な時間を多く取ることはありません。
一つの活動にじっくりと取り組めるようにすることです。



「ゆとり」ある自然学校では、深まりや発展性のある活動をじっくり行うことが求められます。また、指導者は児童が試行錯誤する時間を大切に、失敗から学ばせるという姿勢を持つことが必要です。

充実のポイント

その2 児童の主体的な活動を重視しましょう。



どんな活動が主体的な活動になるの？

ANSWER

自然学校での体験が、以後の学習や生活に生きて働くことにつながる活動のことです。



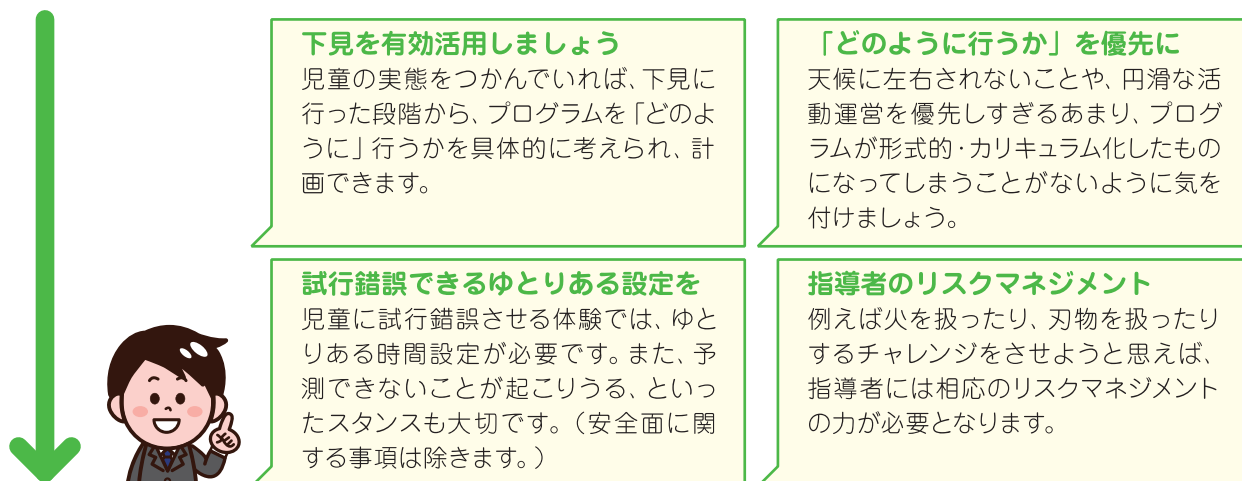
児童の興味・関心を重視した選択型のプログラムや、計画段階から児童が参画し、児童の発想を生かした自然学校となるようにすることが必要です。

長期宿泊（4泊5日）の自然学校だからこそできる、児童の主体性を育み、感動体験を生み出す活動の実践を行いましょう

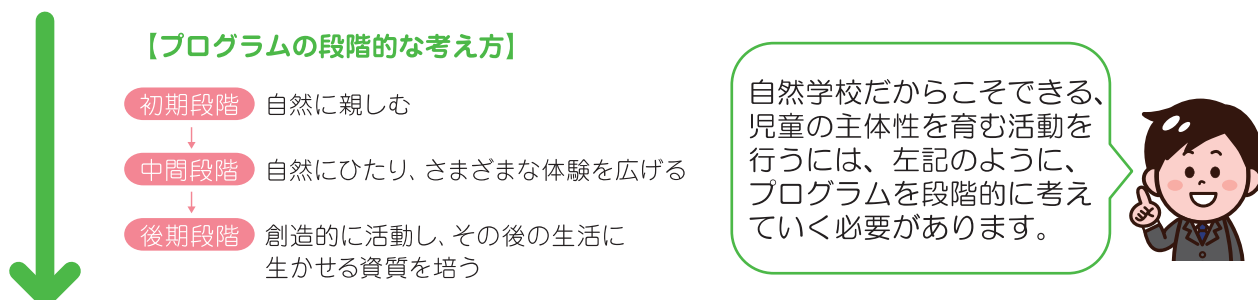
2 自然学校プログラム充実に向けた留意点と改善に向けた「4つの視点」

自然学校のプログラムを計画する上で、まず一番に考えることは児童の実態です。学年団で児童の様子について話し合い、児童観を共通理解しておく必要があります。そして、学校教育目標と照らし合わせ、自然学校を通じて児童に身に付けさせたい力につながる「ねらい」を設定します。

児童の実態をつかむ



「プログラムの段階的な考え方」をおさえる



改善・充実の4つの視点をおさえ、プログラムの見直し・立案

【自然学校充実に向けた4つの視点】〔自然学校推進事業30年目の評価・検証に係る質問紙調査〕（H29）

視点1 自然学校のねらいを達成するために何が必要かを視点としたプログラムデザイン

視点2 自然学校の基本理念を踏まえ、ゆとりある時間の中で自然と豊かに触れ合う活動の充実

視点3 キャリア教育の視点で捉え直し、児童の基礎的・汎用的能力の育成につなげる取組の充実

視点4 児童の成長を積極的に認め、自然学校の成果や学びをその後の学習や生活に生かす

主体性を育む

感動体験

自然学校の更なる質的向上へ

3 自然学校の質的向上の柱～児童の主体性と感動体験～

求められる「主体性」のある活動の設定

児童一人一人が、受け身で対処するのではなく、主体的に向き合って関わり合い、その過程を通して、自らの可能性を発揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となる力を身に付けられるようにすることが求められています。

自然学校で育む児童の主体性とは…

児童がそれぞれの興味・関心によって自ら活動を選択したり、自分のいる環境の中から課題を見いだしたりする中で、その課題解決に向けて、自力で考え、模索し、何事かをやり抜こうとする態度のこと

今こそ「感動体験」を

児童が、やさしく、たくましく、豊かな人間関係を築きながら、生きる目標を持って、生き続けることができるようにするためには、今こそ、自然や社会に直接触れることによって、生きることと一体化した体験となりうるような感動的な体験の機会と場をつくっていく必要があります。

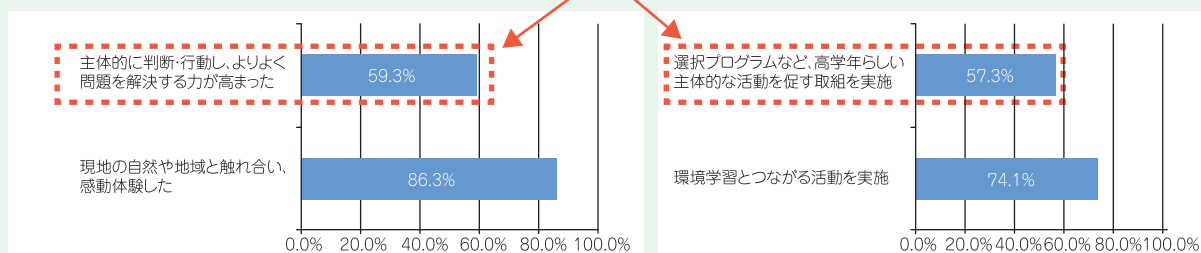
自然学校での感動体験とは…

体験活動の過程の中で様々な人や自然や文化等、「本物」に出会うことで、そこから新たな自分を発見したり、自分が役に立つ存在であることを認識したりしながら、変容していく自己を体験すること

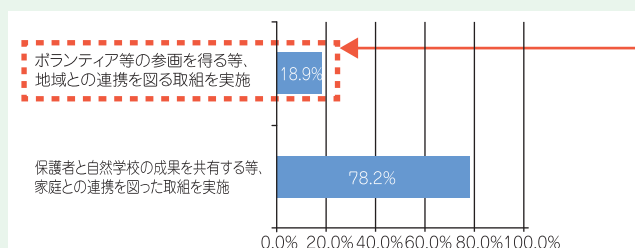
児童の「主体性」を育み、「感動体験」のあるプログラムの工夫・充実を進めましょう！

<平成29年度「自然学校推進事業」の推進状況から見る自然学校実施における課題より>

自然学校の質的な充実を図り、児童が課題を設定し、解決していくなどの視点を取り入れた活動内容を考えていくことが重要です。



自然学校を通じた児童の様子について ※そう思うと答えた割合



「家庭や地域との一層の連携を図る取組の充実」について

ゲストティーチャーと事前に綿密な打ち合わせのもと、連携を図る等、ゆとりある時間の中で、家庭や地域と連携できる自然学校ならではの体験を児童に経験させる等の取組の充実を図る必要があります。

4 児童の主体性を育み、感動体験のあるプログラムに向けて

「自然学校充実に向けた4つの視点」を踏まえ、児童の「主体性」を育み、「感動体験」のある自然学校とするためには、これまでの取り組みを見直した上でプログラムを工夫・充実させることが重要となります。

こんなこと、課題としてあがっていませんか？…

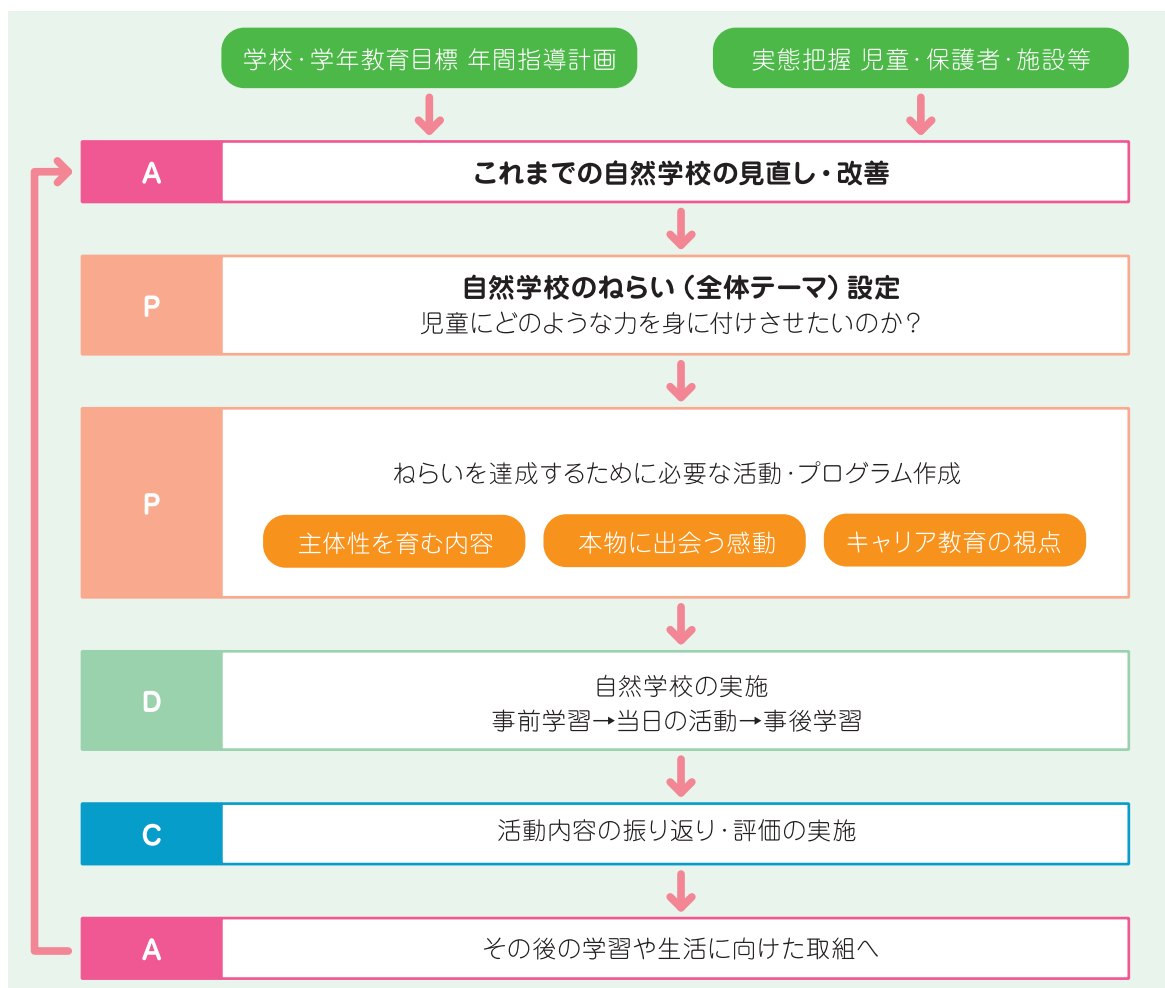
- ねらいが曖昧
- 当日は、リーダーさんに任せておけば、大丈夫
- 例年どおりで、考えずに設定
- 子ども達が喜んでくれさえすればそれでよい
- 指導方法・計画が画一的
- とにかくたくさん活動を体験させればよい

その結果

プログラムが各活動の羅列や寄せ集めの構成になってしまっている

プログラムが詰め込まれ、時間内に淡々と活動をこなすことに力が注がれている傾向になっている

<プログラムの工夫・充実の流れ>



○学校で行われている自然学校のプログラムを点検・見直してみましょう

ねらいについて

- ☐ プログラム全体のねらいが明確で、指導者間で共通理解が図られている
- ☐ ねらいは、保護者や地域、児童のニーズ（興味・関心等）や実態を把握して設定されている
- ☐ ねらいは、「学校教育目標」「学年・学級目標」とのつながりがある
- ☐ ねらいは、具体的な言葉で児童にも示されている
- ☐ ねらいは、キャリア教育の視点で捉えている
- ☐ 個々の活動のねらいは、自然学校全体のねらいに基づいている

自然学校のねらいは、児童の実態から、学校として身に付けさせたい力をもとに設定します。



ねらいや指導方法等を具体的な言葉で明確にすることが、振り返りや評価につながります。

プログラムの作成にあたって

- ☐ 活動場所における「資源」の把握・整理に向け、その都度下見や事前打ち合わせを行っている
- ☐ 指導者の「思い」や「ねらい」が具現化されたプログラムとなっている
- ☐ プログラムは、ねらいに沿って「どのように行うか」を大切に考えられている
- ☐ プログラムは、ねらいを達成するために、活動内容やその順番が考えられている
- ☐ プログラムは、児童が試行錯誤を体験できるようにする等、児童の主体性を育み、感動体験のある内容になっている
- ☐ プログラムは、成功体験だけではなく、失敗体験からも学べる活動が組み込まれている
- ☐ プログラムは、特定の児童だけでなくどの子も、自分の興味・関心がある分野や得意な分野において力を発揮したり、楽しさを感じたりできるような内容になっている

<資源の把握・整理>

人材

費用

地域文化・産業

施設

自然

資源を把握・整理するために、施設の下見や事前打ち合わせが必要です。



「自然学校充実に向けた4つの視点」から、児童の「主体性」を育み、「感動体験」のあるプログラムの作成・実施

5 「自然学校充実に向けた4つの視点」から、児童の「主体性」を育み、「感動体験」のあるプログラムの作成・実施に向けて

視点1 自然学校のねらいを達成するために何が必要かを視点としたプログラムデザインをしましょう

ねらいによって、同じ活動でもプログラム構成や指導者の声かけが変わります

<活動例：野外炊事>

友だちと協力する心を育てたい

火おこし体験

うまくついたグループを参考に！友だちと交代しながら、限られた時間をうまく使って火をつけるにはどうしたらいいだろう。得意な子を中心に、取り組んでみたらどうか。

火をつけるって本当は難しいんだね！だからこそ、友だちと協力して取り組むって大切なことなんだね。今後、自分が得意なことは、どんな場面で発揮できるかな？

火がついて、大きく燃やせた時は、みんなでハイタッチしながら、喜んだよ。とても感動したな。あの子は火おこしがとても上手で驚いたよ。すごいなあ。

友だちを思いやる気持ちを育てたい

おもてなしディナーの計画

友だちの苦手なメニューは何か？ みんなが納得する役割分担を考えよう！友だちの得意なことは何だろう？

友だちが喜んでくれると、こちらもうれしいね！みんなで協力した料理はおいしいね！

これまでは、分からなかった友だちの優しい所に気が付いたよ。「おいしいよ」と言ってくれて、うれしかった！



視点1を踏まえた「主体性」を育む活動

身に付けさせたい力をもとに、5日間を通してつながりのあるねらいを分かりやすい言葉で児童に示すことで、主体的に活動できるようにする。

視点1を踏まえた「感動体験」のある活動

自分たちで考え、試行錯誤しながら活動に取り組み、ねらいに基づいた児童の行動や発言を評価することにより、感動体験につなげるようにする。

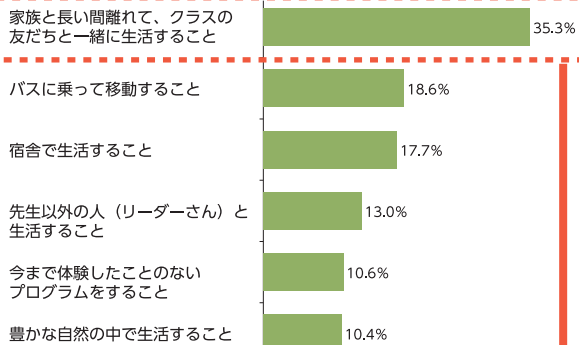
ねらいをもとにプログラム構成を工夫した活動例

●おもてなしディナー（p20） ●森との出会い、発見！（p22） ●竹伐採 ～竹とんぼ飛ばし～（p24）

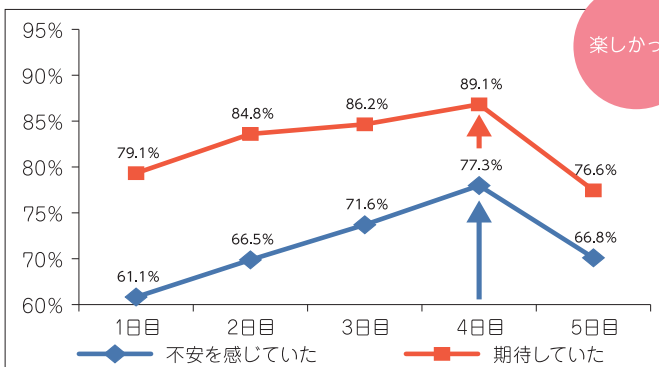
自然学校推進事業30年目の評価・検証に係る質問紙調査結果から見る 児童・保護者の意識【ねらいの設定・プログラム構成】

児童の気持ちの変化

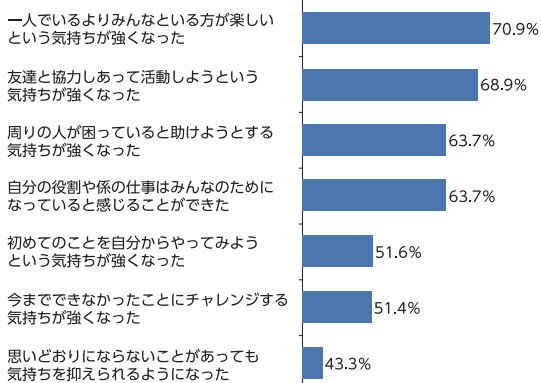
自然学校に行く前に児童が不安に思っていたこと ※複数回答



「家族と長い間離れて、クラスの友だちと一緒に生活すること」へ「楽しみ」と回答した児童と「不安」と回答した児童の実施日ごとの気持ちの変化



「家族と長い間離れて、クラスの友だちと一緒に生活すること」に不安を感じていた児童が、自然学校を終えて感じていること

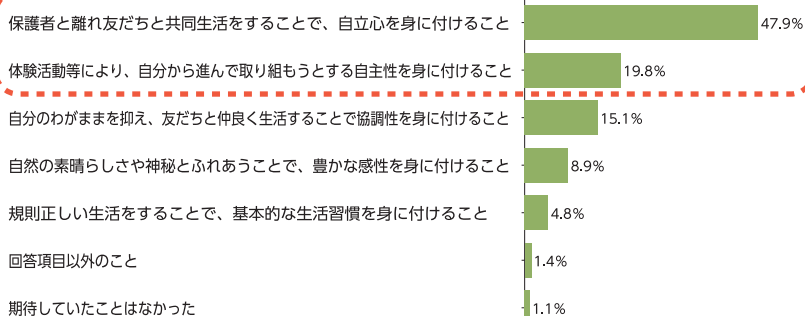


仲間と関わる力を育てる

- 家族と離れ、友だちと一緒に生活することに不安だった児童も、友だちと関わることのよさや協力の大切さを感じるようになります。
- 不安を感じていた児童も、自然学校が進むにつれ、楽しさをより、感じるようになります。

保護者の願い

自然学校を通して、児童の成長面で期待していたこと



自立心・自主性への期待

- 保護者は、自然学校で自立心や自主性が育つことを期待しています。
- 保護者にプログラムの内容やねらいを説明し、共通理解を図ることで、学校と家庭が連携して、児童の力を育てていきます。

児童の心に残ったプログラム

仲間との絆を一番感じたプログラム

山間部の宿泊施設	海辺の宿泊施設
キャンプファイヤー	カヌー・カヤック
野外炊事	キャンプファイヤー
隠れ家作り	野外炊事

「がんばった」「やりきった」と一番感じたプログラム

山間部の宿泊施設	海辺の宿泊施設
キャンプファイヤー	カヌー・カヤック
野外炊事	キャンプファイヤー
登山	野外炊事

視点2

自然学校の基本理念を踏まえ、ゆとりのある時間の中で、自然と豊かに触れ合う活動を充実しましょう

ゆとりあるプログラム構成により、自然体験の深まりや集団としての高まりが期待できます

<活動例：隠れ家づくり>

【森・林の中でじっくりと過ごす活動例】

	AM	PM
1 □□□		隠れ家の現地 下見（森）
2 □□□	ロープワーク 練習&遊び	
3 □□□	隠れ家づくり	
4 □□□	隠れ家遊び	
5 □□□	隠れ家解体	

- ・1日もしくは、半日で隠れ家づくりを行うと、児童は「つくる」という作業だけに追われてしまいます。
- ・本来の目的である自然に触れ合う喜びや仲間との協力等を充実させるために一つのプログラムを重点化し、ゆとりある時間設定をすることも大切です。



○隠れ家づくりの活動であるが、ゆとりある時間の中で、自然と触れる視点を大切にする

- ・動植物の名前や特徴を知ること
- ・五感を使うこと
- ・道具を使うこと等



自然にある木や葉っぱを使って、隠れ家を作ることができた！道具も上手に使えるようになってきたよ。

ゆっくりと友だちと話し合いをしながら、隠れ家づくりができたから、絆が深まったように思うな。



視点2を踏まえた「主体性」を育む活動

豊かな自然の中で児童の自然への発見、自然物等を使った遊び・作成物への創意工夫につながる十分な時間を確保することで、主体的な活動につなげる。

視点2を踏まえた「感動体験」のある活動

豊かな自然の中で十分に活動するゆとりあるプログラム構成により、失敗や試行錯誤を経験させることで、自然の不思議さや恵み、仲間と協力することの大切さに気付く感動体験につなげるようにする。

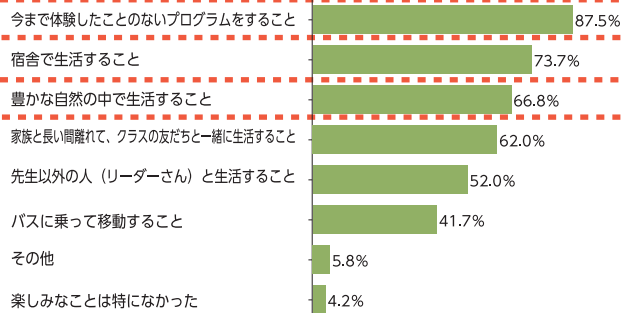
ねらいをもとにプログラム構成を工夫した活動例

- 隠れ家づくり（p26）
- 自然いっぱい山登り（p28）
- 磯の観察会（p30）

自然学校推進事業30年目の評価・検証に係る質問紙調査結果から見る 児童生徒・保護者の意識【自然と豊かに触れ合う活動】

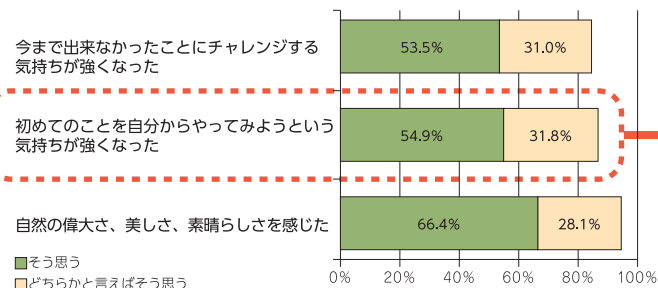
児童の気持ち

自然学校に行く前に児童が楽しみに思っていたこと
※複数回答



- 自然学校という非日常の中で、初めて体験することへの期待の高さが、活動に対する大きな感動と力の高まりにつながっていきます。
- 豊かな自然の中で、ゆったりと過ごすことで、初めてのことに挑戦しようとする姿勢が強くなったと8割以上の児童が感じています。

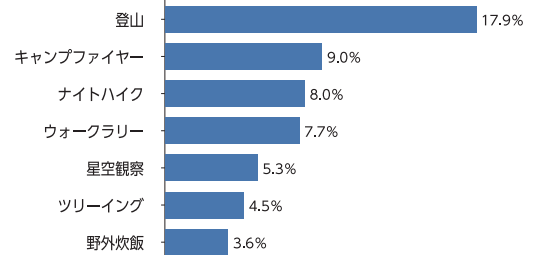
自然学校後の児童の気持ち



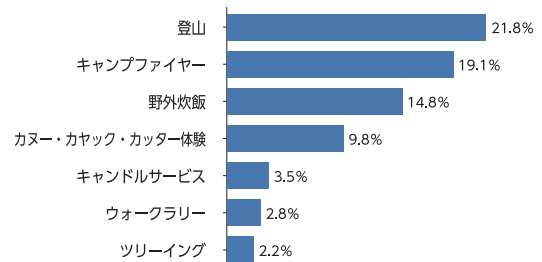
児童の心に残ったプログラム

「自然学校後に『初めてのことを自分からやってみようという気持ちが強くなった』」という質問に対して肯定的な回答をした児童が、それぞれの項目において「一番感じた」と回答したプログラム

自然の偉大さ、美しさ、すばらしさを一番感じたプログラム



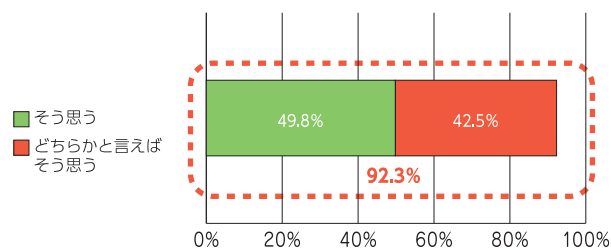
「がんばった」「やりきった」と一番感じたプログラム



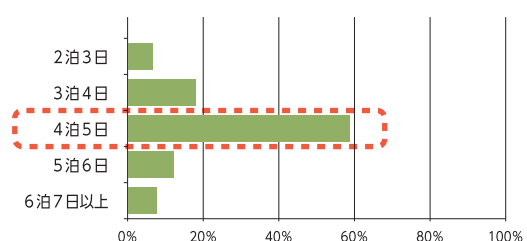
施設にある資源を有効活用し、
ゆとりある活動を！

保護者の意識

児童は自然の素晴らしさや美しさ、偉大さを感じていた



児童の成長にとって適切だと思われる宿泊日数



家庭との連携

ゆとりある実施による効果を期待しています

- 保護者の約9割が、自然学校を通じて、児童は「自然の素晴らしさや美しさ、偉大さ」を感じてきたと肯定的な回答をしています。
- 4泊5日の宿泊日数による実施が児童の成長にとって適切だと感じている保護者が一番多いことから、長期宿泊による自然学校の実施を望んでいます。

視点3

自然学校をキャリア教育の視点で捉え直し、児童の基礎的・汎用的能力の育成につなげる取組を充実しましょう

学校のキャリア教育の視点から身に付けさせたい力を明確にしましょう
キャリアノートの活用し、感動体験を記録・共有しましょう

<キャリア教育の視点から活動を工夫する構成例>

キャリア教育の視点から学校が児童に身に付けさせたい力

自分にできること理解し、他者のことを考えて、進んで行動しようとする力

【関連する基礎的・汎用的能力】

- ◇人間関係形成・社会形成能力
- ◇自己理解・自己管理能力

自然学校を通して、児童に身に付けさせたい力

- ・グループの友だちの互いの良さを認め合うことができる
- ・自分や友だちの役割を考え、進んで行動することができる

【事前の学習活動】「班のめあてを考えよう」

- ・今の自分を振り返り、できることや苦手なことを書く
- ・グループで書いたことを出し合い、互いを認めながら、みんなが納得するめあてを決める

【自然学校の活動】

- ・火おこし体験
- ・野外炊事
- ・登山
- ・キャンプファイヤー等

1日の振り返りを記述する

班やクラスで振り返りを交流する時間を設定する

【事後の学習活動】「自然学校新聞づくり」

- ・自然学校で考えたことや感動したことをまとめ、班で交流する
- ・自然学校で学んだことで、今後の生活に生かしていくことをまとめる

- ・火おこしの時に〇〇さんと△△さんが、協力してくれたので、うまく火がついたよ。
- ・登山の時、◆◆さんが励ましてくれたんだ。うれしかったなあ。



- ・友だちの頑張っていたところをしっかりと見ていたね。
- ・あなたも、食器の片付けを自分から頑張っていたね。



【キャリアノートの活用】

児童の考えたことや感動体験をキャリアノートに記述させ、記録・共有する

視点3を踏まえた「主体性」を育む活動

活動を企画する段階から児童が携わったり、選択プログラムを取り入れたりする等、自分の興味・関心について考える活動から、キャリア発達を促し、児童の主体性を育む。

視点3を踏まえた「感動体験」のある活動

豊かな自然に触れる活動や仲間とつくり上げる活動から生まれる感動体験を通して、児童が考えたことや行動を身に付けさせたい力の視点から認め、認識させていく。

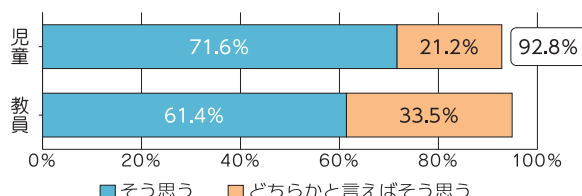
ねらいをもとにプログラム構成を工夫した活動例

- キャンプファイヤー (p32)
- チャレンジウォーク (p34)

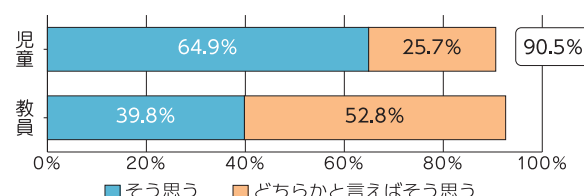
自然学校推進事業30年目の評価・検証に係る質問紙調査結果から見る 児童と教員の意識【キャリア教育の視点】

キャリア教育を視点とした基礎的・汎用的能力に関連する質問項目

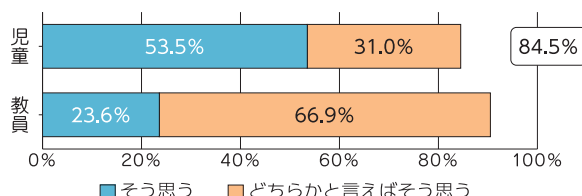
友だちと協力し合って活動しようという
気持ちが強くなった



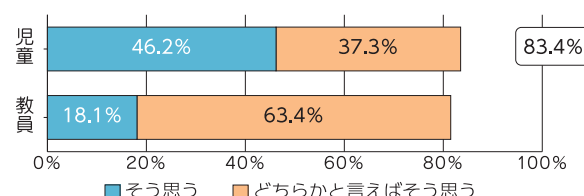
自分の役割や係の仕事はみんなのために
なっていると感じる事ができた



今までできなかったことにチャレンジする
気持ちが強くなった

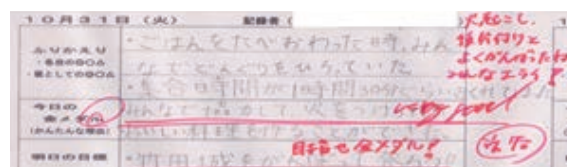
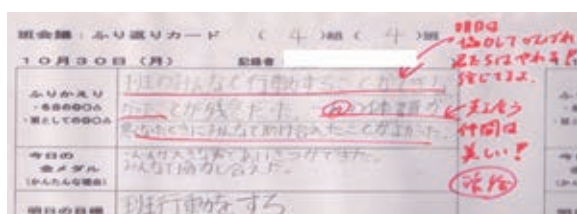


思いどおりにならないことがあっても、
気持ちを抑えられるようになった



- 児童は「友だちと協力することの大切さ」「自分の役割や仕事を果たすことの大切さ」「チャレンジする気持ち」等の高まりを自然学校で感じています。
- 教員も児童の成長を感じていますが、「そう思う」の回答では、差が見られます。

振り返りカードを活用する



キャリア教育を通して育てる4つの基礎的・汎用的能力

人間関係形成・社会形成能力

多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができるとともに、自分が置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力

自己理解・自己管理能力

自分が「できること」「意義を感じること」「したいこと」について、社会との相互関係を保ちつつ、今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に、自らの思考や感情を律し、かつ、今後の成長のために進んで学ぼうとする力

課題対応能力

仕事をする上での様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる力

キャリアプランニング能力

「働くこと」の意義を理解し、自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置付け、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力

児童に身に付けさせたい力を明確にして焦点化し、その力を引き上げることで、自ずと4つの基礎的・汎用的能力全体が高まります。

本校でのキャリア教育の視点から身に付けさせたい力を明確にし、自然学校での各体験活動や体験活動につながる事前・事後の学習をどのようなねらいで指導していくのかを担当学年だけでなく、学校全体で共通理解することが大切です。

視点4

児童の成長を積極的に認め、自然学校の成果や子どもの学びをその後の学習や生活に生かしましょう

事前・事後の活動を充実させることで、自然学校での取組が深まり、
その後の学習・日常生活に生かすことにつながります！

<活動例：星空観察>

事前学習

教科の学習（理科）

【3年】

太陽と地面の
様子

【4年】

月と星

【5年】

天気の変化

星座・天体調べ（自然学校に行く日の星空）

- ・自然学校ではどんな星座が見えるのだろう。
- ・月は出ているかな。
- ・見たい星や星座を決めてみよう。
- ・みんなの家の近くと見え方は違うかな。



- ・事前に調べた時に、見たいなと思っていた星が見えたよ。
- ・4日間で月の形が変わっていったよ。
- ・天体望遠鏡で見た星はとても綺麗だったなあ。



- ・自分の家の近くでも見られるかな。
- ・今度は、違う場所にも見に行きたいな。
- ・みんなで見えた月の形はこんな自然の法則で、見えていたんだな。

自然学校当日

- ・星空観察
- ・ナイトウォーク
- ・キャンプファイヤー

- ・全員で星空を見る貴重な機会
- ・できるだけ見上げる意識を

事後学習

自然学校星空新聞

教科の学習（理科）

【6年】月と太陽

事前・事後の活動においては、自然学校のプログラムのねらいとすれないように、教科との関連を図ったり、キャリアノートを活用したりして、振り返りを可視化する取組が大切です。



視点4を踏まえた「主体性」を育む活動

自然学校のプログラムにつながるのある事前・事後学習を設定することで、調べたことを当日試したり、自然学校での体験や気づきを今後の学習や生活に生かそうとしたりするなど、主体的に活動できるようにする。

視点4を踏まえた「感動体験」のある活動

事前学習により活動への見通しを持たせ、当日の気持ちの変化や感動体験を記録し、事後学習での振り返りを仲間と共有するとともに、児童の成長を教員が認めることで深まりを実感できるようにする。

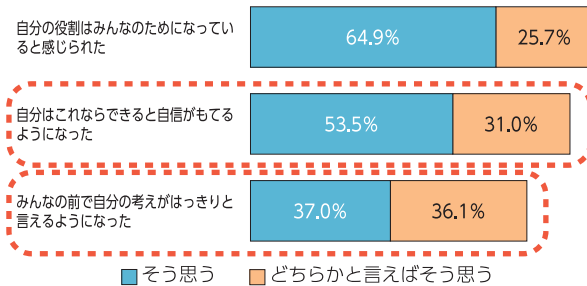
ねらいをもとにプログラム構成を工夫した活動例

- ウォーキング・ナイト（p36）
- 災害にそなえよう（p38）

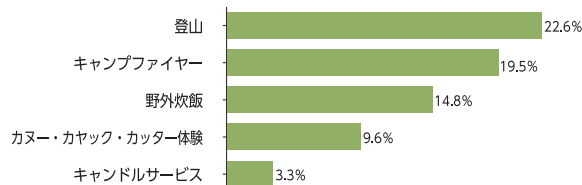
自然学校推進事業30年目の評価・検証に係る質問紙調査結果から見る 児童・教員の意識【クロス集計】

児童の気持ち

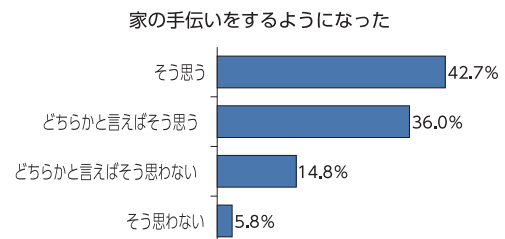
自然学校終えて感じていること ※「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」を回答した割合



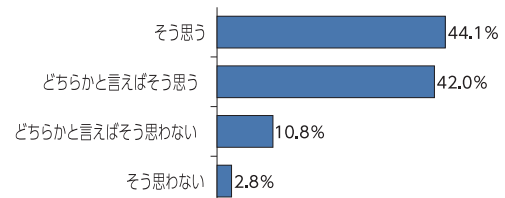
「みんなの前で自分の考えがはっきりと言えるようになった」と肯定的回答をした児童が、「頑張った・やりきった」と一番感じたプログラム



「『自分はこれならできる』と自信が持てるようになった」と肯定的回答をした児童が、「家の手伝いをするようになった」「自分の身の回りのことは自分でするようになった」と感じた割合



家の中で、自分の身の回りのことは自分でするようになった

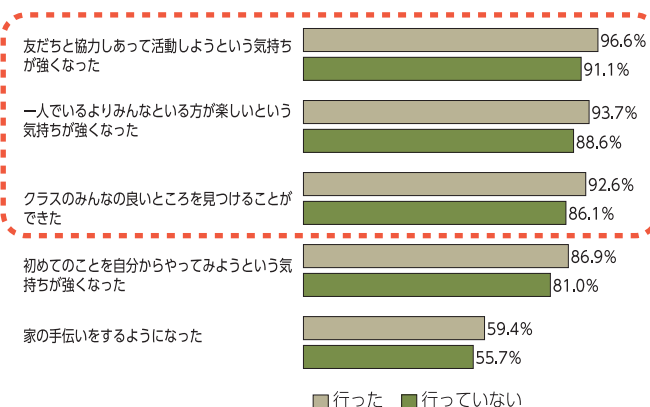


付けた自信を、家庭でのやる気に

- 自然学校での活動を通して、自分自身に自信を持つことができた児童は、進んで家の手伝いや自分の身の回りのことを自分でするようになったと回答しており、成果が家庭でも表れています。
- ゆとりある時間が確保された活動を十分に堪能することで、自己の成長を自覚することができ、そのことを自信として、その後の集団生活において自分らしさを発揮することができます。

児童を見る教員の「目」

「自然学校に出発する前の事前活動において、しおりづくりや係活動等、子どもの自主的な活動を育む取組」について、行ったと回答した教員と行っていないと回答した教員が、自然学校から帰った後の子どもの様子について肯定的な回答をした割合



事前活動が、協力する意識向上のカギに

- 事前活動において、児童の自主的な活動を育む取組を取り入れている学校は、活動の後に、友だち同士のつながりを大切にしたり、楽しんだりしている子どもの様子が、取り入れていない学校よりも、多く見られるという傾向がみられます。
- 事前活動を行うことで、教員自身も活動に向けた評価の見通しを意識できます。

Ⅱ

ねらいを達成し、プログラムを充実させる活動例

1 活動例一覧

活動名		ねらい及びポイント	頁
1	おもてなしディナー	ねらい 普段から感じている友だちへの感謝の気持ちを込めたディナーを企画・運営することを通じ、相手を思いやる気持ちの大切さについて気付かせる。	20
		ポイント 児童の主体性が高まるように、児童自身でおもてなしメニューを考えさせる。また、日ごろの感謝の気持ちをそえることで、自然学校だけの感謝ではなく、今後の学校生活にもつながりを持たせるようにする。	
2	森との出会い、発見！	ねらい 森林の中の自然（どんぐり、もみじ、香りのある植物）を観察することによって自然の事物・現象への興味と関心を高めるとともに、自然の多様性に気づき、自然を愛する態度を養う。	22
		ポイント 自分達が住んでいる地域の自然への関心を高めるために、比較する事前学習や、気付いたことを自分の言葉で語る事後活動を取り入れる。 観察し、発見したことを友だちと共有したり、自分が住んでいる地域の自然について、新たな視点で観察したりすることを通して、豊かな自然物のもつ魅力に気付かせる。	
3	竹伐採 ～竹とんぼ飛ばし～	ねらい 竹の素材や特長について理解を深めるとともに、計画を立て、課題に対してねばり強く取り組み、自分の力で解決しようとする力を養う。	24
		ポイント 目標に向かってじっくり取り組める時間を確保する。 児童同士の教え合い（ヒントや発見した点等）の場面等を設けることで、活動に対する達成感を味わわせたり、自己有用感を高めたりできるようにする。	
4	隠れ家づくり	ねらい 森林の中で仲間と協力しながら丸太やロープを使った隠れ家づくりを通じ、協力することの大切さや仲間とのつながりの大切さについて気付かせる。	26
		ポイント 個々がそれぞれ力を発揮し、仲間と協力して力を合わせた時には、大きな成果が得られることを感じさせる工夫を取り入れる。 他者の存在の貴重さやありがたさについて、協力した取り組みを振り返る場を設定し、共有させる。	
5	自然いっぱい山登り	ねらい 一人テント泊を通して、自己を見つめ直し、自立心や自己肯定感を養う。 活動を通じ、自然の神秘性、美しさ、偉大さに気付くとともに、自分で登り切った達成感を味わわせる。	28
		ポイント 児童の主体性を育むため、活動の見通しを持たせ、一人テント泊に向けた準備や、早朝登山で観察してみたいことを児童自身に考えさせる。 一人テント泊やナイトハイク、早朝登山で時間によって変化する自然の偉大さ、雄大さ、美しさを感じさせる。	

活動名			ねらい及びポイント	頁
6	磯の観察会	ねらい	磯の生き物に触れる、磯水族館をつくる等、磯での活動を通して、自然の偉大さや素晴らしさ、大切さに気付かせる。	30
		ポイント	活動の振り返り時には、知識だけでなく、感じたことも含めて、まとめさせる。(事前活動時に方法を決めておく) スノーケリング・カヤックの指導等、現地スタッフに任せる部分と、児童が事前に決定した視点をもとに、観察を行うための指導や支援等、教職員が行う部分とを分担する。	
7	キャンプファイヤー	ねらい	キャンプファイヤーを通じて、仲間との絆を深めるとともに、力を合わせて物事に取り組むことの大切さに気付かせる。	32
		ポイント	個々の役割を明確にし、果たすことで、自己有用感を高めたり、友だちと協力して一つのものをつくり上げる喜びを味わわせたりする。 キャンプファイヤーをつくり上げたことの達成感を自然学校後にも生かせるよう、振り返り活動を充実させる。	
8	チャレンジウォーク	ねらい	活動を通じて、協調性を養うとともに、地域をめぐることから、その土地における自然や人、地域の歴史や文化等に対する理解を深めさせる。	34
		ポイント	活動グループで相談する際には、児童の興味・関心によってコースや体験活動の希望を出し合い、互いに調整させる。 予想外の出来事に対して、試行錯誤しながらも、臨機応変に対応できる時間を確保する。	
9	ウォーキング・ナイト	ねらい	普段の学校生活では、体験することができない夜の自然の感覚を味わうことから、自然に対する興味を深めさせたり畏敬の念を感じさせたりする。	36
		ポイント	児童が暗闇を歩き、「未知の体験」を味わえるようなルートや時間を設定する。 大自然における生命の営みの素晴らしさを実感したことを自分なりに表現し、感動を共有したり、深めたりする機会を設ける。	
10	災害にそなえよう	ねらい	災害により引き起こされる危険を予測する意識を養うとともに、災害時には、自ら危険を回避する行動や周囲の人々の安全に配慮した役立つ行動についての知識を身に付けさせる。	38
		ポイント	寝食を共にする機会を生かし、災害が起きた際には、自分には何ができるのか考えたり、自分でできることに取り組もうとする意欲を向上させたりする内容を、活動内に工夫して取り入れる。 自然学校での活動を契機とし、普段の生活から、地域の一員としての防災意識の向上が図られていくような継続した取組を行う。	

2 活動例の見方

- 見開きの左ページから、右ページにかけて、活動を時系列にそって掲載しています。
- 活動実施における指導者の留意点を掲載しています。

○○（活動）のねらい

・・・自然学校全体のねらいとつながりをもつ「活動のねらい」です。

活動全体の流れ

・・・事前・当日・事後等の流れを示しています。

主体性を育む



・・・活動の中で、特に児童の「主体性を育む」ポイントを示しています。

感動体験を生む



・・・活動の中で、特に児童の「感動体験を生み出す」ためのポイントを示しています。



Check!

・・・指導者が、活動のねらいにそった指導を行う上で、意識されているかどうか確認してほしいポイントを示しています。

ワンポイントアドバイス



・・・活動を行う上で、指導者に留意しておいてほしい事項についてまとめています。

○○○かな？

△△△しよう！

・・・ねらいに沿った活動が進められている場合、児童から出てくるであろう「つぶやき」を示しています。

こんな体験につなげて発展を！

こんな体験もできます

・・・関連して行うことができる体験や活動をもとにして、発展を図ることができる体験について紹介しています。

「○○」を充実させるために

・・・活動を充実させるために、全体を通して押さえておいてほしいポイントを示しています。

<掲載の具体について※事例1「おもてなしディナー」より>

活動のねらい

「おもてなしディナー」のねらい

普段から感じている友だちへの感謝の気持ちを込めたディナーを企画・運営することを通じ、相手を思いやる気持ちの大切さについて気付かせる。

活動の流れ

活動全体の流れ



主体性を育むポイント

主体性を育む



あえて役割分担をせずに、その場で話し合わせ、自分たちで見通しをもたせる

感動体験を生み出すポイント

感動体験を生む



おもてなしディナー中に児童それぞれの感謝の思いを共有する

指導上で確認してほしいポイント

Check!

- ☐ 教師主導でプログラムを決めていますか
- ☐ 話し合う時間を十分に取っていますか

指導者に留意してほしいポイント

ワンポイントアドバイス

相手意識をもたせることで、グループ活動に主体性が生まれ、さらに、児童が仲間との協力の大切さを実感できるようになります。



児童からの「つぶやき」



ウェルカムボード作成

活動の発展に向けた紹介

こんな体験もできます

「おもてなしディナー」でつくるメニューを、食に関する他の活動と関連させて、実施することも考えられます。

- 例 うどんづくり体験、
ピザづくり体験、
棒焼きパンづくり体験 等

活動の充実に向けて、全体で押さえてほしいポイント

「おもてなしディナー」のねらい

1. グループを2つに分け、交代制で行うようにする
2. 児童の主体性が高まるように、児童自身でおもてなしメニューを考えさせるようにする
3. 日ごろの感謝の気持ちをそえることで、自然学校だけの感謝ではなく、今後の学校生活にもつながりを持たせるようにする

3 活動例

1 「おもてなしディナー」

「おもてなしディナー」のねらい

普段から感じている友だちへの感謝の気持ちを込めたディナーを企画・運営することを通じ、相手を思いやる気持ちの大切さについて気付かせる

活動全体の流れ



活動の様子

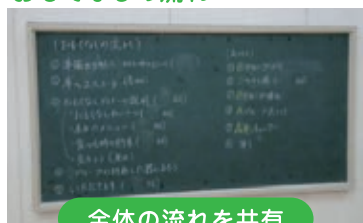
1. おもてなしディナー計画

主体性を育む

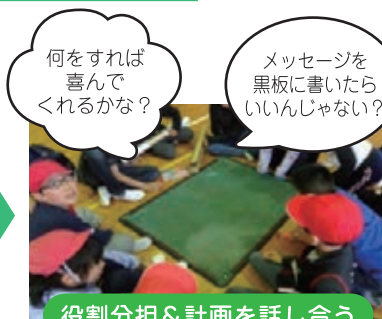


あえて役割分担をせずに、その場で話し合わせ、自分たちで見通しをもたせる

●役割分担の話し合い おもてなしの流れ



全体の流れを共有



役割分担&計画を話し合う

✓ Check!

- ☐ 教師主導でプログラムを決めていますか
- ☐ 話し合う時間を十分に取っていますか

ワンポイントアドバイス

児童一人一人がプログラムを自分の事として捉えることができ、見通しをもって活動できるようになります。

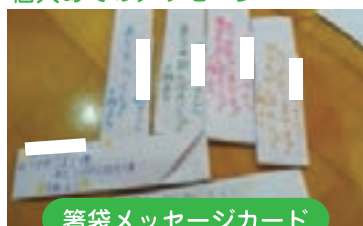
2. おもてなしディナー準備

主体性を育む



ディナーのゴールをイメージさせた上で、相手意識を持たせ、準備を行うようにする

●おもてなしディナーの準備例 個人あてのメッセージ



箸袋メッセージカード



ウェルカムボード作成

✓ Check!

- ☐ 「誰に」という相手意識をもたせていますか
- ☐ おもてなしディナーのねらいに沿った準備（物）ですか

ワンポイントアドバイス

相手意識をもたせることで、グループ活動に主体性が生まれ、児童が仲間との協力の大切さをさらに実感できるようになります。

3. おもてなしディナー開催

感動体験を生む



おもてなしディナー中に児童それぞれの感謝の思いを共有させる

●おもてなしディナー例

友だちのために、ご飯をつくるって、わくわくするね。

昨日粉から練ってつくってくれたうどんは、こしがあっておいしかったなあ（うどんづくり）

今日は、たくさんのありがとうの気持ちをこめたディナーをつかったので、たくさん食べてください。

完成!

どんな顔をするのかなあ〜。

お好み焼クッキング

おもてなしディナー

感謝の気持ちの呼びかけ

●児童同士の交流

普段のお礼がたくさん書いてあって、うれしいな。

ありがとうございます、照れる〜。

僕たちのために、おいしいディナーをつくってくれて、ありがとう!!

昨日大変な思いをしてつくってくれたから、今日はがんばろうと思ったよ。

こんな体験もできます

「おもてなしディナー」でつくるメニューを、食に関する他の活動と関連させて、実施することも考えられます。

例 うどんづくり体験、ピザづくり体験、棒焼きパンづくり体験 等

児童の席は、グループ同士が交流しやすいように、交互に座らせます。

グループ同士で感謝の気持ちを交流しながらの食事

✓ Check!

- ☐ 相手グループに対して、呼びかけを考えていますか
- ☐ 一人一枚は、メッセージカードを書いていますか
- ☐ 座席は、別々のグループが一緒に座る等、工夫していますか

ワンポイントアドバイス

普段は恥ずかしくて言えなかった思いを口に出すことができたり、友だちの様々な思いを感じ取ったりすることができ、友だち同士の絆を深めることにつながります。



「おもてなしディナー」を充実させるために

1. グループを2つに分け、交代制で行うようにする
2. 児童の主体性が高まるように、児童自身でおもてなしメニューを考えさせるようにする
3. 日ごろの感謝の気持ちをそえることで、自然学校だけの感謝ではなく、今後の学校生活にもつながりを持たせるようにする

2「森との出会い、発見！」

「森との出会い、発見！」のねらい

森林の中の自然（どんぐり、もみじ、香りのある植物）を観察することによって自然の事物・現象への興味と関心を高めるとともに、自然の多様性に気付き、自然を愛する態度を養う

活動全体の流れ

事前学習

自然学校中

身の周りの
自然探し

もみじがり

どんぐり
コレクション

香りを
「きく」

自然物
クラフト

活動の様子

主体性を育む



地域の自然物にはどんなものがあるか調べ、環境を把握させる

●身の周りの自然さがし

Q.あなたが住んでいる家のそばには、どんな〇〇がありますか？

自然のことなんて
全然気にして
いなかったよ。

もみじってこの辺で
見かけないなあ。
カレンダーでは
見るけどね。



生活科で、秋探しを
した時、公園で
どんぐりたくさん
ひろったなあ…

花や草などの
植物を、
最近におったり
しないなあ。

✓ Check!

- ☐ 児童は、身の回りの自然にどの位、関心をもって生活していたか、自覚できていますか
- ☐ 〇〇の中に、「自然物」と聞いて児童が思い付いたことを入れてみんなで考えることができていますか

例 木、木の実、花、昆虫、石など

事前の学習

感動体験を生む



もみじにはたくさんの種類があり、その違いに気付かせる

赤ちゃんの
手くらい小さな
もみじを
見付けたよ



え？これも、
もみじなの？
知らなかったなあ。

なんて
名前だろう？



✓ Check!

- ☐ 「おいも」（おおきさ、いろ、もよう）といったキーワードの設定など、共通の視点をもって、様々な違う種類のもみじを探させていますか
- ☐ 集めたもみじについて発表し、みんなでもみじの多様性についての共通理解を図れていますか

ワンポイントアドバイス

正しい樹木名を知ることがねらいではなく、同じように見えていたものが実は数多くの種類があることに気付かせることが大切です。



【出会い】もみじがり

感動体験を生む



どんぐりにも、たくさんの種類があることに気付き、どのようなおもちゃが作れるかを想像し、実際の作業へつなげる

【出会い2】どんぐりコレクション



このどんぐりとそのどんぐりって
同じ種類?違う種類?

形も帽子も似ているようで、
よく見ると違うから、違う種類だよ。



どんぐり集めは、
楽しいな。

だいぶ
コレクションが
増えたぞ!

ワンポイントアドバイス



手元にどんぐりについて調べられる資料(木々の地図や図鑑等)を準備しておくといよいでしょう。施設に準備してある資料の活用も考えられます。

Check!

- ☐ 自然物に対するローインパクト(自然に与える影響を最小限にとどめる)の精神を説明し、必要以上に植物を傷つけないよう指導していますか

感動体験を生む



香りをもつさまざまな植物を集め、どのような香りがするかを感ずるとともに、感じたことを言葉で伝え合う(香りについて、友だちの話を「きく」)

【出会い3】香りを「きく」



鼻に小さなげとげがささる
感じの匂いたと思うな。

ん〜、これは胡椒の匂いに
似ているな。ぼくの好きな
香りだなあ。



人によって、
同じ匂いでも
表し方が違うのだなあ。

ワンポイントアドバイス



香りを表現しにくい子どもには、生活経験から「〜のような」「〜に似ている」など例えたり、「つーん」「ぷーん」等感じたまを音にするよう助言します。

Check!

- ☐ 「香り植物分布図」等、参考資料をもち、香りをもつ植物の採集に取り組んでいますか
- ☐ 集めた植物の香りを言葉で表現し、どの植物の香りであるかを友だち同士で当て合あうことで共有化が図れていますか

こんな体験につなげて発展を!

自然物クラフト

活動で集めたもみじやどんぐり等を使って、想像力を働かせながら「クラフトづくり」に発展できます。

「森との出会い、発見!」を充実させるために

1. 自分達が住んでいる地域の自然と比較する事前学習を取り入れる
2. 気付いたことを自分の言葉で語る事後活動を取り入れる
3. 豊かな自然物のもつ魅力(大きさ、色、模様、形等)への気付きを友だちと共有させる
4. 自分が住んでいる地域の自然について、新たな視点をもって観察させる

3 「竹伐採～竹とんぼ飛ばし～」

「竹伐採～竹とんぼ飛ばし～」のねらい

竹の素材や特長について理解を深めるとともに、計画を立て、課題に対してねばり強く取り組み、自分の力で解決しようとする力を養う

活動全体の流れ

事前学習

竹の素材、特長調べ

1日目

竹の伐採、材料成形

2日目

竹細工(竹とんぼ)づくり

3日目

竹とんぼ飛ばし大会開催

自然学校中

活動の様子

事前の学習

●竹の素材や特長について調べ、理解を深める

竹は成長が早く、固く、弾力性もあるため、生活の様々な用途に使われてきました。特に縦に細く割れる性質から、竹ひごがとれ、竹細工に活用されています。

尺八等の
楽器にも!

ほうきや釣り竿に
使われているね

しなる性質を
利用して
いるんだよ。



主体性を育む



竹伐採の係の内容を説明し、立候補によって係を決定する

●係決め

- ①時間を十分に取り、竹伐採全体の流れを共有する
- ②それぞれ自分がやりたいことを出し合う
- ③互いに意見を受け入れながら、係を決定していく



●分担して活動

竹を伐採



太いね!

竹って
かたいなあ!

刃で傷つけた後
反対方向から
折るんだよ。

枝払い



運搬



協力して運ぼうね。

Check!

- ☐ 困っている児童に対して、教員はすぐに手伝わずに、見守る意識がもてていますか
- ☐ 役割を終えた児童が、他の児童を手伝うようなサポート体制や声かけができていますか

ワンポイントアドバイス

自らが竹伐採を行うことで、竹を切る手ごたえを感じるとともに、香りを嗅ぐ体験ができ、自然を感じることに繋がります。



【1日目】竹を伐採し、作業できる大きさに揃える

主体性を育む



初めから指導者等に教わるのではなく、試行錯誤しながら作成することが、児童にとって、主体的な活動になる

【2日目】竹細工（竹とんぼ）づくり

●竹とんぼづくりの設計図



●試行錯誤しながら工作



ワンポイントアドバイス



一つの竹で失敗しても、いくつも竹細工をつくれるように、たくさん準備しておくといいです。失敗してもそこから学ぶことが大切です。失敗を乗り越えてこそ成功体験を味わわせることが大切です。

こんな体験もできます

事前学習で学んだことをもとに、竹の特長を生かしたかごを編んだり、スプーン、箸づくりをしたりすることも可能です。



自作のスプーンやお箸を自然学校中の食事で使うと、活動につながりが生まれそうですね。

感動体験を生む



根気よく取り組んだ先には、経験した人しか感じることでできない感動があることを感じ取らせる場を設定する

【3日目】竹とんぼ飛ばし大会の開催

●練習タイム



●竹とんぼ飛ばし大会



ワンポイントアドバイス



竹とんぼ飛ばしの目標（「高さ」「時間」「距離」等）を設定することで、児童の意欲を高めることにつながります。また、より遠くに飛ばす工夫をしたい場合は、時間を設けて、児童が納得するまで取り組ませると、チャレンジする心を育むことができます。

✓ Check!

- ☐ 活動の集大成の場（児童自身が楽しめる内容）が設定できていますか
- ☐ 自然学校のねらいと活動のねらいが合致するような場づくりを児童と考えられていますか

「竹伐採～竹とんぼ飛ばし～」を充実させるために

1. 目標に向かってじっくりと取り組める時間を確保する
2. 達成感を味わわせ、児童の自己有用感を高める場を設定する
3. 児童同士の教え合い（ヒントや発見した点等）の場面を設ける

4 「隠れ家づくり」

「隠れ家づくり」のねらい

森林の中で仲間と協力しながら丸太やロープを使った隠れ家づくりを通じ、協力することの大切さや仲間とのつながりの大切さについて気付かせる

活動全体の流れ

事前学習

隠れ家の設計図作成

1日目

丸太を使った隠れ家づくり

2日目

森の自然物を使った隠れ家づくり

3日目

発表会開催&遊び

自然学校中

活動の様子 ～事前学習で、隠れ家の設計図を考えておく～

主体性を育む



習得したことをすぐに活用できる活動を設定する

【1日目】

隠れ家づくり（人工物を使って練習）

【習得】木々の組み方を学ぶ



ロープの結び方にも色々あるんだなあ。

隙間を埋めて、ロープでくくる…これが基本！

【習得】グループで練習



これは、屋根の部分の柱に使うよ。

この丸太は、どこに使うんだった？

【活用】様々な丸太を組み合わせて創作



パッチリ！これなら、森でつくっても大丈夫そうだ！

あとは、この丸太をつなげば完成だね。

【活動の流れ】

①「隠れ家をつくろう」等テーマを設定し、個々の自由な発想で楽しい遊び場を考え、設計図におこす。設計図を目標に、ロープワークの基礎を学ぶ。

②基礎を生かして、自分たちだけで、ロープワークを行う。設計図を完成させるためには、どのような丸太を組み合わせたらいいかを、話し合う。

③設計図をもとに、丸太を組み合わせていく。その際、組み合わせた強度や向きにも注意しながら隠れ家をつくっていく。

ワンポイントアドバイス

- ・児童一人一人の言語活動を確保するため、ゆとりのある時間設定を行うことが大切です。
- ・隠れ家の設計図を班ごとに考えさせる中で、話し合いで物事を決めるプロセスを学ばせます。



感動体験を生む



森の木々を使用し、隠れ家を製作する過程で、よりよい案を出し合いながら自分たちの活動を改善する

【2日目】森での隠れ家づくり(自然物で挑戦)

森の木々を使用して製作



ワンポイントアドバイス



実際に森にある木々を使うことで、隠れ家づくりの難易度が、ぐっと上がります。そこで、話し合いを設定することにより、仲間との協力の大切さに気付かせることができます。

Check!

- ☐ 仲間と相談をしながら、困難に立ち向かう場が意図して設定されていますか
- ☐ 力を合わせて、一つのものでつくり上げていく環境を意図して設定していますか

感動体験を生む



自分達が製作した隠れ家のアピールポイントを全体の前で発表し合い、認め合うことで満足感を高める

【3日目】隠れ家発表会&【4日目】隠れ家あそび

滑り台を生かした隠れ家



綱渡りを生かした隠れ家



ワンポイントアドバイス



つくり終わった隠れ家は、おもてなしディナー(冊子20ページ参照)での、食事場所にしたり、フリータイムを使って、遊んだりすることに活用できます。また、隠れ家同士をつなげる、バージョンアップする等の工夫をするなど児童の主体性を高める手立てを行いましょう。

【振り返り】アピールポイントや活動での思いを共有

Check!

- ☐ 児童が仲間と協力して完成させた隠れ家で遊んだり、くつろいだりする場面を設定し、連帯感・達成感へつなげることができていますか
- ☐ お互いの作品を見合い、認め合う場面を設定し、児童の自己有用感の高まりや達成感へつなげることができていますか

「隠れ家づくり」を充実させるために

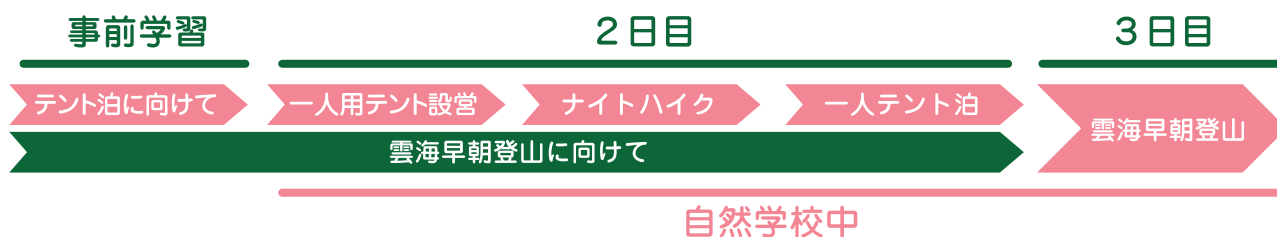
1. 個々がそれぞれの力を発揮し、仲間と協力して力を合わせた時には、大きな成果が得られることを感じさせる工夫を取り入れる
2. 他者の存在の貴重さやありがたさについて、協力した取り組みを振り返る場を設定し、全体でその大切さを共有させる

5「自然いっぱい山登り」

「自然いっぱい山登り」のねらい

- ・一人テント泊を通して、自己を見つめ直し、自立心や自己肯定感を養う
- ・活動を通じ、自然の神秘性、美しさ、偉大さに気付くとともに、自分で登り切った達成感を味わわせる

活動全体の流れ



活動の様子

1. 事前学習

主体性を育む



活動の見通しをもたせることで、必要な準備を考えさせる

●テント泊に向けて

- ・出前講座等を活用し、一人テントの立て方を知り、テント泊への意欲を高める
- ・一人テント泊や雲海登山に必要な準備物について話し合う

●雲海早朝登山に向けて

- ・第4学年理科「(4) 天気の様子」での既習内容と関連させ、雲海が発生するメカニズムや条件等についての知識や理解を深める



ワンポイントアドバイス

事前に活動の見通しをもたせることで、自然学校中の課題を設定し、主体的に活動に取り組むことが期待できます。

2. 一人テント泊に向けて

感動体験を生む



励まし合ったり助け合ったりすることを通して、仲間と感動体験を共有させる

一人用テント設営



二人一組となり、仲間と協力して、一人用テントを設営する

ナイトハイク



一緒にがんばろう！ほら、星がきれいだよ。

暗い山道はちょっと怖いなあ。

夜の自然の様子を静かに聞いたり感じたりする暗闇体験をグループ単位で行うことで、一人テント泊の緊張を和らげる

ワンポイントアドバイス

夜の静寂の中で、日々の生活を振り返ったり自分と向き合ったりすることで、今後の目標を設定する機会をつくることができます。



3. 一人テント泊～雲海早朝登山

感動体験を生む



眼下に広がる雲海を見ることで、自然のつくり出す美しさや雄大さを体感させる

●一人テント泊



一人テント泊をする

出発!



テントを撤収し、雲海早朝登山へ出発する

✓ Check!

- ☐ 自然学校で頑張ったことやこれから頑張りたいこと、家族への感謝の気持ち等、日々の生活を一人でじっくり振り返りながら、自身の成長に向けたためあてを立てさせていますか

●雲海早朝登山



自然を感じ取ることができるよう、五感を働かせながら登頂・下山を行う

最高の景色! 登って良かった!

友達が励ましてくれたから、この景色が見れた。ありがとう。



こんな体験もできます

雲海を見られるように早朝に出発し、山頂(目的地)で朝食の弁当を食べたり、下山する際には、植物観察や木の実の採集などを行ったりと、登山以外の目的も設定することができます。

ワンポイントアドバイス

友だち同士励まし合いながら登山することを通して友だちの温かさを感じたり、早朝に登山し、今まで見たことがない景色を見ることで、自然の偉大さ、雄大さ、美しさを感じたりすることができます。



今の登山にもう一工夫

登山途中で出会う自然との「出会わせ方」に一工夫を!

例

- ・「万葉集」に出てくる植物を探してみよう
- ・自然と出会った印象を「ここで一句」→俳句集に

「自然いっぱい山登り」を充実させるために

1. 一人用テント泊に向けて、児童の不安をナイトハイク等で軽減する
2. 児童の主体性を育むため、活動の見通しをもたせ、一人テント泊に向けた準備や、早朝登山で観察してみたいことを児童自身に考えさせる
3. 一人テント泊やナイトハイク、早朝登山で時間によって変化する自然の偉大さ、雄大さ、美しさを感じさせる

6 「磯の観察会」

「磯の観察会」のねらい

磯の生き物に触れる、磯水族館をつくる等、磯での活動を通して、自然の偉大さや素晴らしさ、大切に気付かせる

活動全体の流れ

事前学習

自然学校中に興味・関心によって、選択した方法で生き物を観察する

観察の計画を立てる

磯の観察会

カヤック・スノーケリング体験等による生き物観察

活動の様子

主体性を育む



調べる視点、手段、方法、観察対象等を児童の興味・関心によって選択させる

事前の学習

観察の計画を立てる



【活動の流れ】

まず、活動のゴール（発表会・マップづくり）を決める。次に、その海や磯を観察するための視点を話し合い、まとめる。

視点 生息する場所（海中・磯・岩の下等）
水中の様子、深さ…など

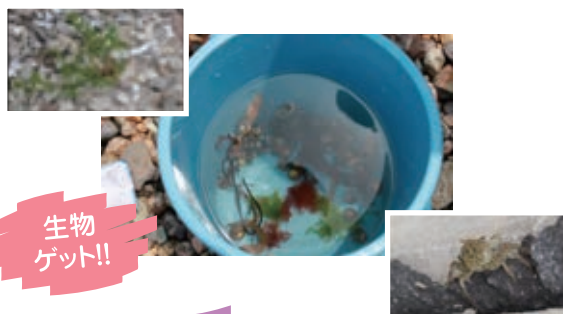
グループで磯観察



グループに分かれて、磯観察を行う。その際、視点ごとにメモを取り、どのような生物がいたのかを確認する。

危険生物等については、事前に写真等で児童に説明しておく。

磯の観察会



Check!

- ☐ 児童の安全が確保されているか細心の注意を払うなど、活動に対するリスクマネジメントができていますか
- ☐ 時間の途中で採集した生き物を持ち寄り、図鑑等を使って互いに調べた後、新たな視点をもって再度観察する機会を設けるなど、ゆとりある時間設定になっていますか

ワンポイントアドバイス

児童が集まったら、見つけた生物を見せながら解説を行ったり、それぞれの体験について共有したりするといった「振り返り」の時間を取ると、より自然の素晴らしさを感じることができます。



●カヤックを使った観察

- ・カヤックの仕組みを知り、指導員よりパドル操作を習う
- ・海上から五感を使って、海の素晴らしさを感じ取る



感動体験を生む



自分が見たこともない、生物（魚、貝、海藻等）に触れたり、スノーケリングをしたりして、海を体全体で感じさせる

●スノーケリング観察会



見たことのない貝だ!!

磯にはいなかった魚がたくさんいるよ!!



魚
ゲット!!

【活動の流れ】

はぐれないようにグループ組になり、観察を行う。
安全管理の徹底のため、児童には笛等、緊急を知らせるためのものを携帯させておく。

ワンポイントアドバイス

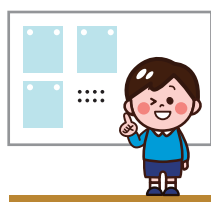
地域指導者から、磯の様子や生き物についての説明を受けることも大切です。



✓ Check!

- ☐ 海の様子を観察する手段は、訪問地の実施可能な方法を選択させるなど、児童の興味・関心を配慮していますか
- ☐ 現地スタッフに任せる部分と、学校職員が行う指導や支援の部分とを分担していますか

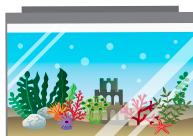
生き物発表会



磯の生物の
生息マップづくり



ミニ水族館づくり



こんな体験につなげて発展を!

塩づくり・おにぎりづくり

海水を熱して塩をつくり、出来た塩を使っておにぎりをつくる活動も考えられます。
海の恵みは生活と密接な関係があることに気づき、環境を守っていこうとする意識につなげていけるとよいでしょう。

「磯の観察会」を充実させるために

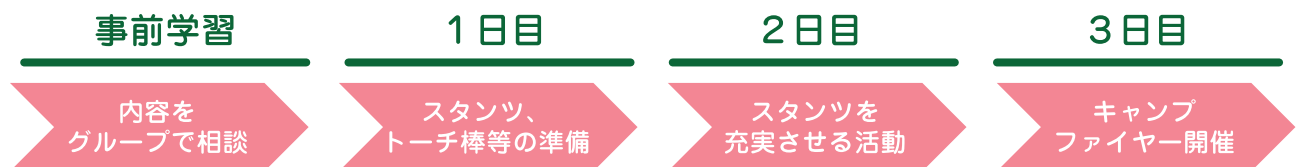
1. 活動の振り返り時には、得た知識だけでなく、児童が五感を使って感じたことも含めて、まとめさせる（事前活動時に方法を決めておく）
2. スノーケリング・カヤックの指導等、現地スタッフに任せる部分と、児童が事前に決定した視点をもとに、観察を行うための指導や支援等、学校職員が行う部分とを分担しておく

7 「キャンプファイヤー」

「キャンプファイヤー」のねらい

キャンプファイヤーを通じて、仲間との絆を深めるとともに、力を合わせて物事に取り組むことの大切さに気付かせる

活動全体の流れ



活動の様子

主体性を育む



友だちと協力してイベントを企画・運営する時間を設定する

【活動の流れ】

【グループの活動】

【全体の企画・運営】

1
フリータイムを利用して、グループでスタンツを考える。参加者全員が楽しめる内容になるよう工夫する。

1
キャンプファイヤー全体の計画をグループの代表者で考える。参加者全員が楽しいと感じられるキャンプファイヤーになるよう工夫する。

2
その場にあるもので、できることを考え、練習する。必要なものは自然物を利用して作成する。

2
グループの活動の進み具合を見ながらプログラム順を考える。イベントに必要なものは自然物を利用して作成する。

【1日目】キャンプファイヤーに向けて

【グループ】スタンツを考える



みんなで同じ動きをさせたらどうか？

それだけじゃ面白くないから、間違えそうな動きにしよう。

【グループ】トーチ棒づくり



火を点けた時に大きな炎になるね。

さらにしっかりと巻き付けておこう。

【グループ】運営の話し合い



いい案が出てるね！

円になった方がみんなの顔が見えるんじゃない？

ワンポイントアドバイス

- ・児童が協力してキャンプファイヤーをつくらうとする姿勢を認めながら、必要なアドバイスをすることが大切です。
- ・グループでスタンツや全体の計画を考える中で、友だちと協力して1つのことをつくり上げる達成感を味わわせます。



主体性を育む



グループで考えたことを充実させる活動時間を設定する

【2～3日目】自然学校での体験を盛り込む

●スタントに自然学校の出来事を盛り込む



そうだね。
山での動きから
変化させたら楽しいかも!

今日登った山の頂上での
景色のことも入れようよ。



山で見た景色の感動を、
みんなで動きと声で
表現したら楽しそう!

ワンポイントアドバイス



児童が考えたスタントを違う視点で再考できるようにアドバイスすることで、より充実した話し合い活動にすることができます。
自然学校中の活動を盛り込むと、自分が頑張ったことを振り返ることもできます。

✓ Check!

- ☐ 思い出を共有させながら、話し合い活動を活性化させるような支援ができていますか
- ☐ 児童は、友だちと協力することの喜びを感じられていますか

感動体験を生む



自分達で企画したキャンプファイヤーを運営し、1つのものをつくり上げた達成感を味わわせる

【4日目】キャンプファイヤー

キャンプファイヤーの運営

みんなが
楽しんでいるから
うれしい!



思い出の共有

みんなで楽しんだ
この時間を、
もって帰ろう!



ワンポイントアドバイス



キャンプファイヤーを実際に運営していく中で、教員の支援が必要な場面が出てきた時には、児童が「頑張れた」と実感できるような支援の工夫が大切です。
「分火」等でキャンプファイヤーの思い出をもち帰り、「やってよかった」「自分の役割を頑張れた」等の達成感を味わわせます。

【振り返り】

スタント練習やキャンプファイヤーで感じたことを共有する。

✓ Check!

- ☐ 仲間と協力して企画したキャンプファイヤーを運営し、全員が一体となる時間を設定し、連帯感・達成感につなげられていますか
- ☐ キャンプファイヤーを振り返る時間を設定し、自己有用感の高まり、達成感へつなげられていますか

「キャンプファイヤー」を充実させるために

1. 個々の役割を明確にし、果たすことで、自己有用感を高めたり、友だちと協力して一つのものをつくり上げる喜びを味わわせたりする
2. 同じ時間を過ごし、キャンプファイヤーをつくり上げたことの達成感を自然学校後にも生かせるよう、振り返り活動を充実させる

8 「チャレンジウォーク」

「チャレンジウォーク」のねらい

活動を通じて、協調性を養うとともに、地域をめぐることから、その土地における自然や人、地域の歴史や文化等に対する理解を深めさせる

活動の様子

主体性を育む



散策や買い物等、自分が活動の中でしたいことについての意見を出し合い、友だちの意見と折り合いをつけながら計画に反映させる

【事前活動】

チャレンジウォーク実施に向けて

● 散策の計画

体験できる場所を調べる



行ってみたい体験のプレゼンを行い、体験場所を全体で決定

散策のルート決定

散策に関する準備

- ①ガイドブック等を参考にし、グループで一つ体験活動を調べる。
- ②体験活動の魅力を紹介するプレゼンを行い、投票で何力所か選択する。
- ③体験活動とルートを決める。

当日の活動計画に組み込む

買い物に関する準備

- ①カレーに入れる具材を話し合う。
- ②予算の範囲内で、決めた具材を購入できる店を調べる。
- ③店を決定する。

● 買い物の計画

カレーに入れる具材を相談し、購入できる店を探し、決定する



✓ Check!

- ☐ 児童は時間や距離等を想定して、ルートを設定していますか
- ☐ 児童は購入場所、金額、調理方法等まで調べて具材を決定していますか

ワンポイントアドバイス

自分またはグループがしたいことは何なのかをじっくりと考える経験をしたり、考えたことを実行するためには、段取りが必要であることを理解したりする経験から、主体的に行動するすばらしさを感じさせましょう。



主体性を育む



事前の計画を元に、その場の状況に応じて、対処することで課題解決の力を向上させる

●チャレンジウォークの実施

計画していたよりも、
時間がかかっているなあ!



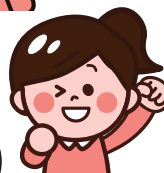
今どの辺に
いるのかな?

買い物



ええと、予算は
〇〇円だった
から...

今日は安売り
だって!ラッキー!



●【選択】体験活動に取り組む

この地域は、
長い歴史が
あるんだな。



座禅体験

そばにある滝には
そんな伝説があるなんて!

このじゃがいも、
カレーに入れたら
おいしそうだろなあ。



農業体験

こんなに
大きなのは、
売ってないね!

上手に
磨けているね!

班のみんなと
おそろいだから、
チームの気持ちが一
つになるね。



勾玉づくり

感動体験を生む



計画通りに活動を進むように教員がすべて支援するのではなく、予想外の出来事が起きても、試行錯誤しながら子ども達自身に対処させることで、達成感につなげる

ワンポイントアドバイス



- ・指導者の配置や救急体制等について児童と確認するとともに、途中のトラブルにも対処できるように、余裕のあるスケジュールで実施します。
- ・散策の途中で出会う地域の方や立ち寄るところでお世話になる方と適切なコミュニケーションの取り方についても考えさせます。

こんな体験もできます

野外炊事

散策する環境や児童の実態に合わせて、カレー以外のメニューに挑戦することも出来るでしょう。立ち寄った店で、各班が材料を購入し、持ち寄ったものから、みんなでつくるメニューを考える、という活動の工夫も考えられます。

「チャレンジウォーク」を充実させるために

1. 活動グループで相談する際には、児童の興味・関心によってコースや体験活動の希望を出し合い、互いに調整させる
2. 予想外の出来事に対して、試行錯誤しながらも、臨機応変に対応できる時間を確保する

9 「ウォーキング・ナイト」

「ウォーキング・ナイト」のねらい

普段の学校生活では、体験することができない夜の自然の感覚を味わうことで、自然に対する興味を深めさせたり、畏敬の念を感じさせたりする

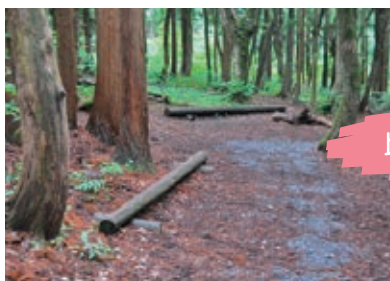
活動の様子

主体性を育む

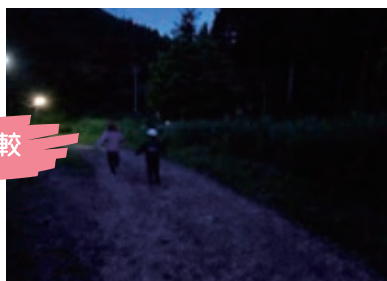


昼と夜との「違い」を見つけることを事前に知らせることで、児童の主体的な活動につなげる活動にする

昼の森



夜の森



比較

Check!

以下のような視点で「違い」に注目させていますか

- ☐ 昼間の様子と夜間の様子（気配、温度、生き物の様子、音 等）
- ☐ 家で見える星空と自然学校で見える星空

ワンポイントアドバイス

「違い」に注目することで、自分なりの視点をもたせた上で、散策にのぞめます。

例 ・夜にはどんな生き物が見つけれられるかな？ ・星座はいくつ探せるだろう？



感動体験を生む



暗闇で感じたことを、オノマトペ（擬音語等）を使って表現して、友だちと交流させる

昼はいろいろな音がしていたけど、夜は川の流れる音や虫の鳴き声が、目に見えなくても綺麗に聞こえてくるよ。

昼と夜では森の雰囲気全然違う…。怖い…。



ワンポイントアドバイス



移動中は、声を一言も発さず、夜の山の様子を目や耳に神経を集中させながら、感じ取ろうとすることで、恐怖・驚き・感嘆等、様々な感覚を感じさせましょう。

暗闇の世界にふれる

主体性を育む



出会った生き物のうち、興味があるものを一つ選んで、その生態について調べる活動を取り入れさせる

夜の森に生きる生き物の世界にふれる



こんなにたくさんのホタル、初めて見た。あ、僕の肩と腕に止まったよ!

セミが脱皮をしていたよ。真っ白なんだなあ。



蝶…と思ったら、これは、蛾だあ!



ワンポイントアドバイス



飛び回るホタルの美しい光や、木の樹液に集まる昆虫、懐中電灯で照らされた目が光る野生動物等、実際の生態にふれることが大切です。

Check!

☐ 身の回りの自然環境を守る意識につなげる事後の学習を想定していますか

感動体験を生む



教員や外部の専門家が場所や観察方法、宇宙や星にまつわる話等を工夫するとともに、星空にじっくりふれる時間を確保する

星空の世界にふれる

あ、流れ星!!



星座の中に、たくさんの星が入ってるよ!

ワンポイントアドバイス



それぞれお気に入りの場所を見つけ、星座を友だちと探す、専門家や望遠鏡等、人や物を活用するゆったりとした時間を楽しみます。キャンプファイヤーの時に星空を見上げて、みんなでもう一度、一緒に星空を楽しむ活動もあります。

Check!

☐ 星空を見た経験を友だち同士で共有するなど、感動が更に深まる工夫を行っていますか

「ウォーキング・ナイト」を充実させるために

1. 児童が暗闇を歩き、「未知の体験」を味わえるようなルートや時間を設定する
2. 大自然における生命の営みの素晴らしさを実感したことを自分なりに表現し、感動を共有したり、深めたりする機会を設ける

10「災害にそなえよう」

「災害にそなえよう」のねらい

- ・災害により引き起こされる危険を予測する意識を養う。
- ・災害時には、自ら危険を回避する行動や周囲の人々の安全に配慮した役立つ行動についての知識を身に付けさせる。

活動の様子

主体性を育む



教科・行事等の学習活動で、防災に関連する学習を進め、意識を向上させる

社会科

●活動とのつながり

◆小学校学習指導要領(平成29年告示)

・社会第5学年2内容(5)イ(ア)

災害の種類や発生の位置や時期、防災対策などに着目して、国土の自然災害の状況を捉え、自然条件との関連を考え、表現すること。

・3内容の取扱い(5)ア

地震災害、津波災害、風水害、火災災害、雪害などを取り上げること

◇5年社会(いずれも下巻) 単元

・自然災害とともに生きる(教出)

・国土の環境を守る(日文)

・自然災害を防ぐ(東書)



保健

●活動とのつながり

◇小学校学習指導要領(平成29年告示)

・体育第5学年及び6学年G保健(2)ア

(中略)けがなどの簡単な手当をすること。

◇5年保健 単元

・けがの防止(東書・大日本・学研)

避難訓練(学校行事)

ワンポイントアドバイス

災害は「自分ごと」である意識をもたせましょう!

兵庫県の中央部には山崎断層が東西に走っており、これが地震の引き金になるおそれがあることに気付かせます。兵庫県内各地が、過去に様々な災害に見舞われていることを知ることで、防災意識を高めます。



道徳等



<小学校5年 道徳教科書>

- ・木造校舎の思い出をむねに(廣あかつき)
- ・この思いをフェルトペンにたくして(学研)
- ・二十分間の出来事(学研)・明日へ向かって(光文)
- ・いつものひなん訓練(日文)
- ・「太陽のような笑顔」が命をつなぐ(日文)
- ・命を守る防災訓練(光村)
- ・おばあちゃんからもらった命(光村)
- ・稲むらの火(教出)・心にかける屋根シート(学図)
- ・猛火の中で(学図)・命を預かる鉄道員の使命(学図)
- ・一本松は語った(東書)

<心ときめく>

- ・1.17は忘れない ・お父さん
- ・おばあちゃん 風呂に入りよ ・ともに支え合って

<明日に生きる>

主体性を育む



地震による避難所開設を想定し、必要なことや役割分担について話し合い、実行させる

地震発生！

Check!



事前学習を踏まえ、避難所に求められる機能について話し合い、必要な役割について気付いていますか

地震が発生した場合に、避難所開設に必要な行動について話し合う

どんな役割に
何人必要な。

けがをした人の
手当が必要だね。

多くの人が
過ごせる場に
しないと
いけないね。

食べるものは
どうやって分けたら
よいだろう。



役割分担をし、避難所の開設・運営を開始

居住スペース 作成グループ

一つのグループが
使えるスペースの
区切りは、体育館の
ラインを目印にしよう。

通路の
スペースが
ないと、
移動できないね。



男女の生活
スペースは
分ける必要が
あるね。

皆で過ごす
ための約束も
考えよう。



食料物資管理・ 配給グループ

皆が、もらい
やすいようにするには、
どんな配り方を
すればよいか考えよう。

配布する時間を
決めて、
お知らせしないと
いけないね。



何がどれくらい
あるのか、
一覧表を
つくっておこう。

食べた後の
ゴミの始末は
どうしたらよいかね。



救護グループ

地震が起きた時は、
どんなけがを
してしまうか、考えよう。

負傷者役と
手当役に
分かれて練習だ。



包帯の巻き方は、
保健の授業を
復習してみよう。

骨折した人には、
添え木が
必要になるね。

Check!



数多くの人を利用することを考え、皆が共通で守るルールづくりが必要であることに気付いていますか



自分達一人ひとりが必要な一員であるという自覚のもと、協力して行動することが求められる大切さに気付いていますか

「災害にそなえよう」を充実させるために

1. 自然学校という寝食を共にする機会を生かし、災害が起きた際には、自分には何ができるのか考えたり、自分でできることに取り組もうとする意欲を向上させたりする内容を、活動内に工夫して取り入れる
2. 自然学校での活動を契機とし、普段の生活から、地域の一員としての防災意識の向上が図られるような継続した取組を行う

1 自然学校推進事業30年目の評価・検証に係る質問紙調査について

(1) 調査の概要

ア 調査の目的

昭和63年に事業を開始した自然学校推進事業が平成29年度に30年目を迎えることから、小学校5年生の児童とその保護者等に対する質問紙調査を実施し、事業の評価・検証を行う。

イ 調査時期

各小学校の自然学校終了後、1週間以内

ウ 調査対象

- ・自然学校に参加した小学校5年生の全児童
- ・児童質問紙を回答した児童の保護者等
- ・5年生の学級担任（特別支援学級は除く）

エ 実施校数

41市町90小学校

オ 回答数

・児童 / 5,707名 ・保護者 / 5,111名 ・教員 / 254名

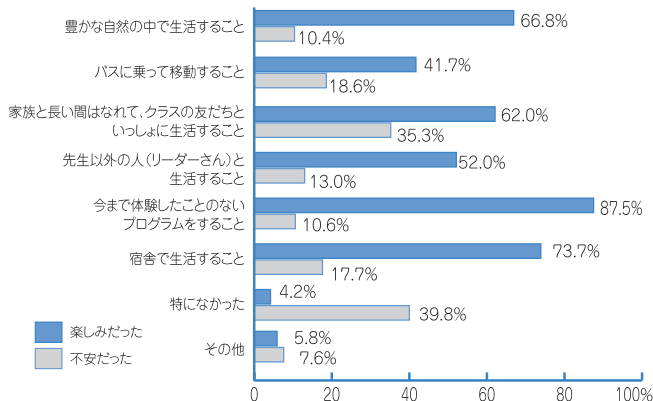
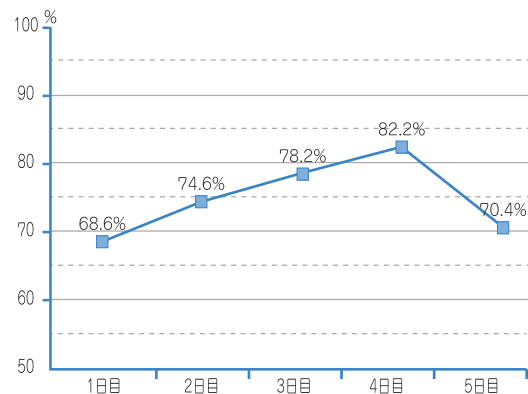
カ 調査事項

- ① 児童質問紙 ・自然学校の活動を通して感じたことや自分自身の成長について 等
- ② 保護者質問紙 ・自然学校の取組について
・自然学校後の児童の変容について 等
- ③ 教員質問紙 ・自然学校の企画/立案について
・自然学校実施後の児童の変容について 等

(2) 調査結果

ア 児童質問紙調査結果

行く前に、「楽しみ」・「不安」だと思っていたこと

自然学校中に友だちと過ごした時の気持ちとして
「楽しかった」と回答した児童の割合

仲間との絆を一番感じたプログラム

宿泊地特性	上位3項目のプログラム名		
海	カヌー・カヤック	キャンプファイヤー	野外炊事
山	キャンプファイヤー	野外炊事	隠れ家づくり
山と海	カヌー・カヤック	野外炊事	キャンプファイヤー

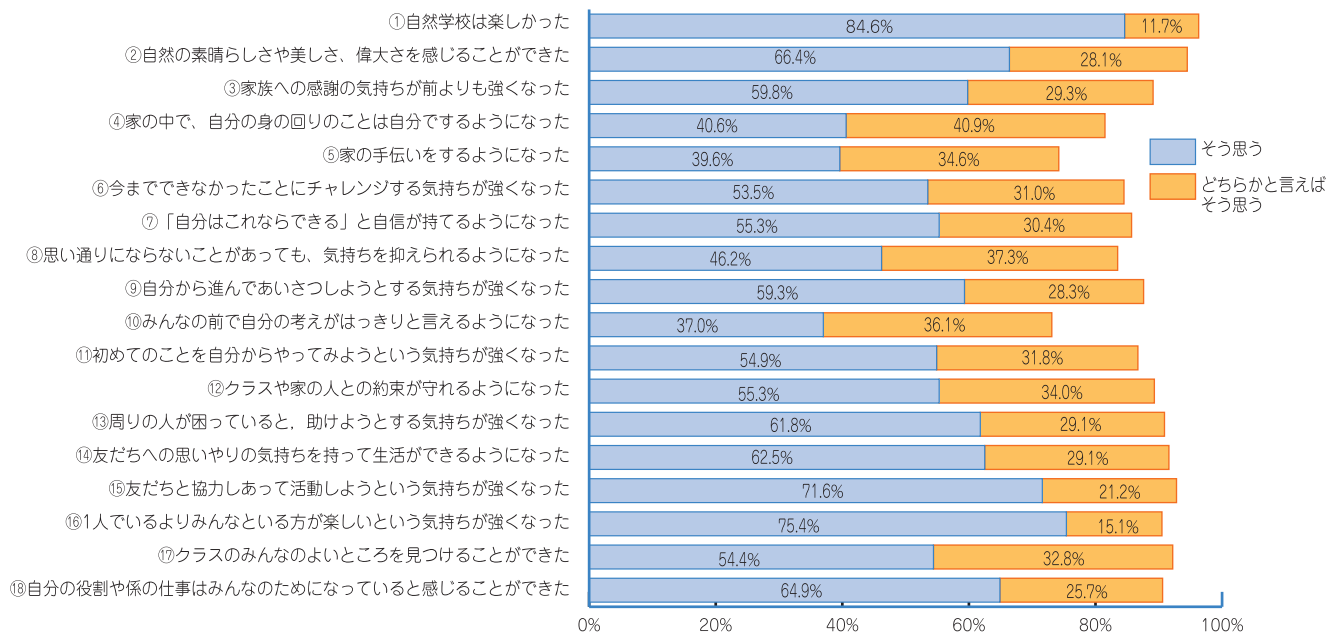
自然の偉大さ・美しさ・素晴らしさを一番感じたプログラム

宿泊地特性	上位3項目のプログラム名		
海	施設見学 等	体験活動 等	キャンプファイヤー
山	登山	キャンプファイヤー	オリエンテーリング
山と海	オリエンテーリング	登山	自然散策（海）

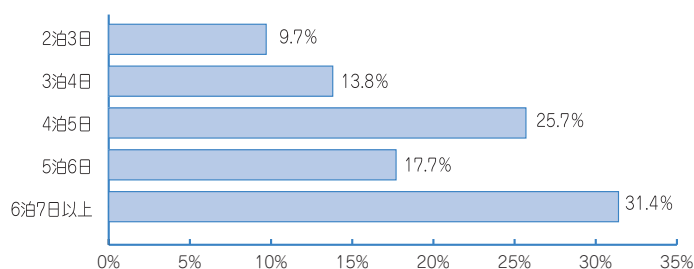
「がんばった」「やりきった」を一番感じたプログラム

宿泊地特性	上位3項目のプログラム名		
海	カヌー・カヤック	キャンプファイヤー	野外炊事
山	キャンプファイヤー	野外炊事	登山
山と海	野外炊事	カヌー・カヤック	登山

自然学校を終えて感じていること

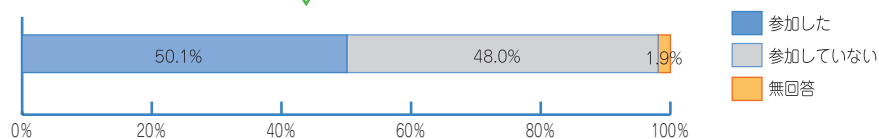


適切だと思われる宿泊日数（児童）

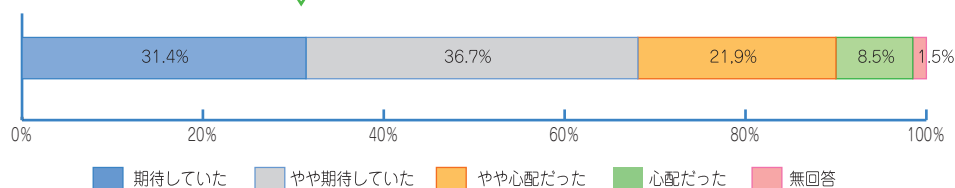


イ 保護者質問紙調査結果

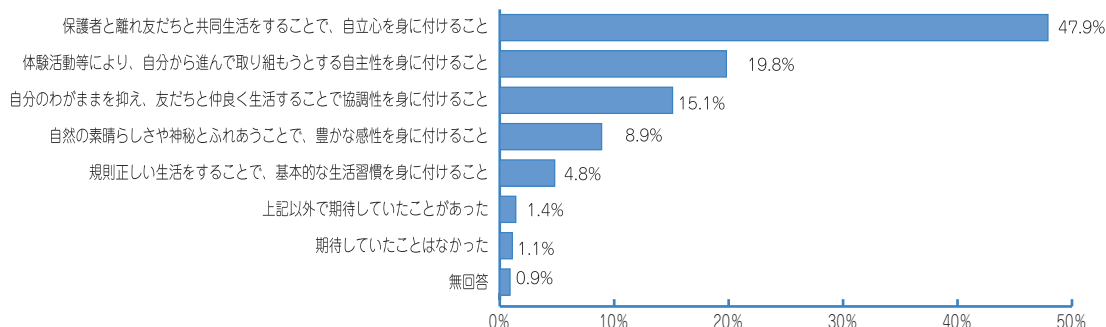
保護者の自然学校経験



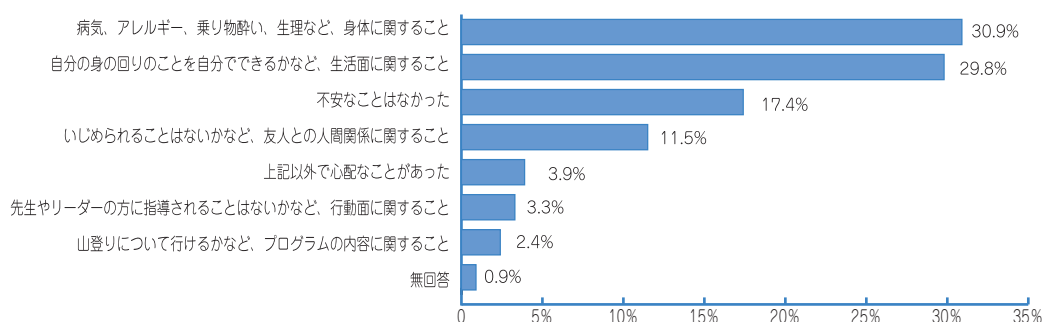
送り出す際の保護者の期待と不安



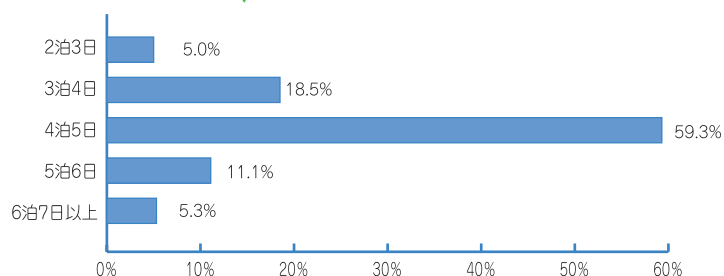
成長面で保護者が期待していたこと



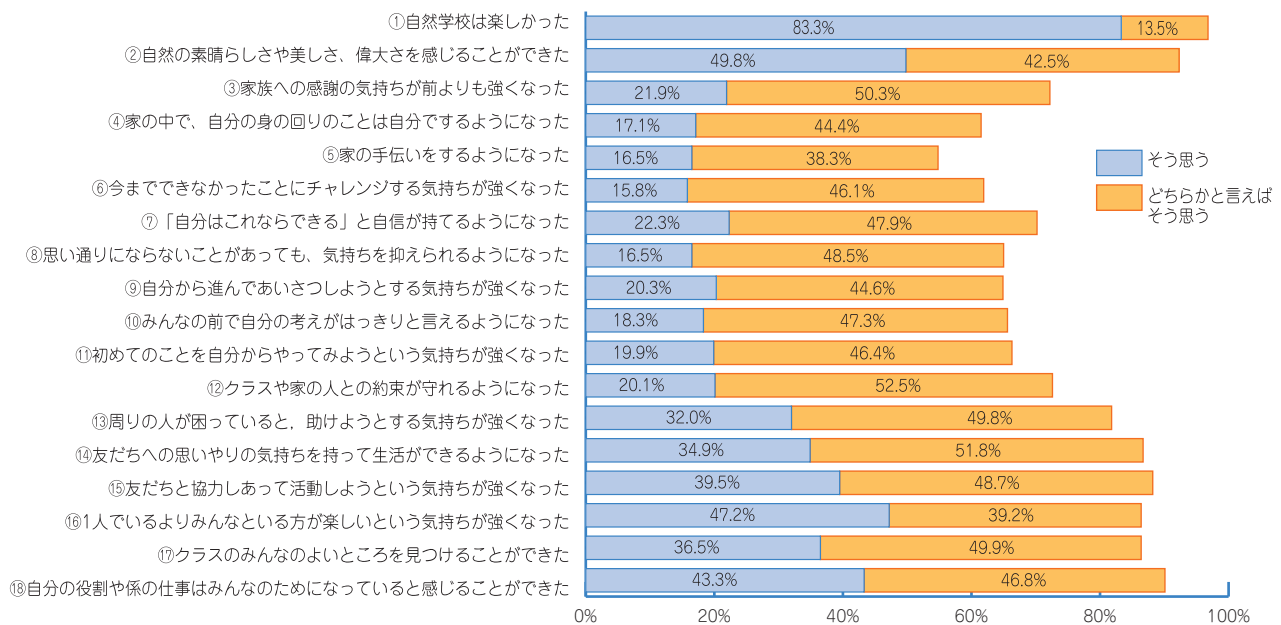
最も保護者が心配に思っていたこと



子どもの成長にとって適切だと思われる宿泊日数（保護者）



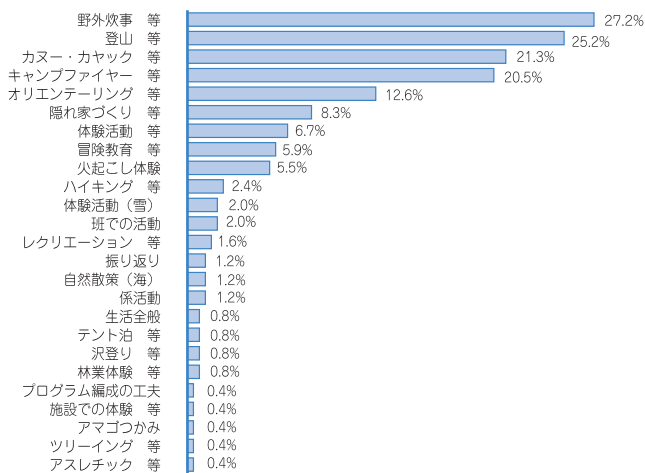
自然学校を終えた子どもの様子（保護者）



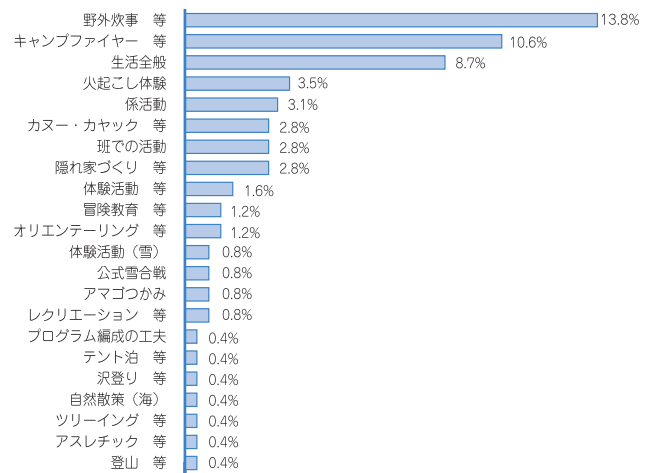
ウ 教員質問紙調査結果

※アンケート回答数254名

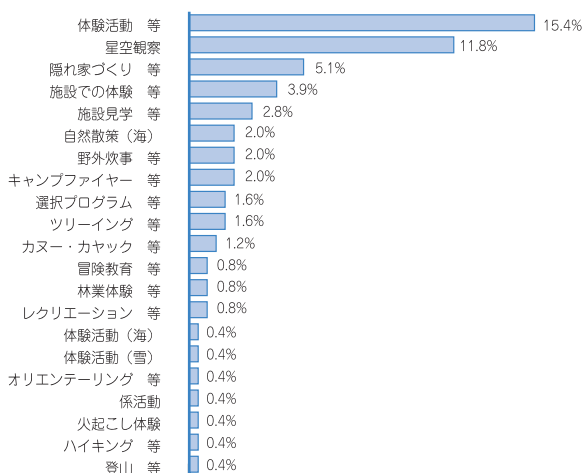
困難を乗り越えるプログラムやグループ活動を取り入れたプログラム（教員回答）



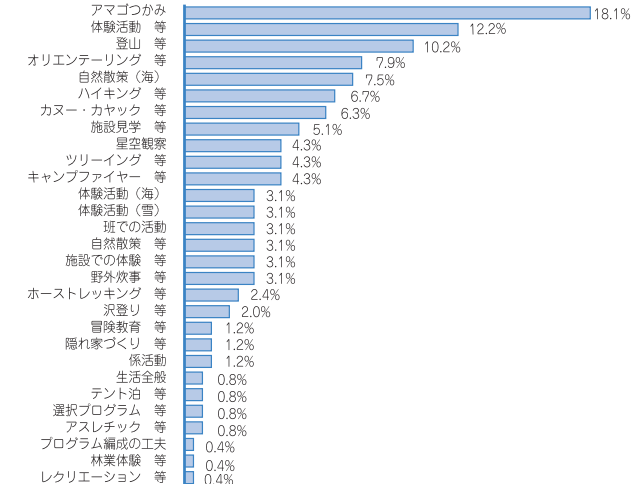
ゆとりのある滞在型プログラムで失敗体験を成功体験へつなげていく取組（教員回答）



地域人材から学んだことを生かしていけるようなプログラム（教員回答）



自然に触れ、命の大切さに気づくようなプログラム（教員回答）



(3) 質問紙調査用紙

児童用質問紙

4 自然学校を終えて、どのように感じていますか。次の①～⑭の質問について、自分の気持ちに一番近いものに○をつけてください。

○ 自然学校に参加した小学校5年生のみなさんへ 次の質問に答えてください。
() 小 学 校 (男 ・ 女)

1 自然学校に行く前に楽しみだと思っていたことすべてに○をつけてください。

- () 豊かな自然の中で生活すること
() バスに乗って移動すること
() 家族と長い間はなれて、クラスの友だちといっしょに生活すること
() 先生以外の人(リーダーさん)と生活すること
() 今まで体験したことのないプログラムをすること
() (自然体験・アウトドアクッキング・キャンプファイヤーなど)
() 宿舎で生活すること(お風呂、食事、宿泊など)
() 特になかった
() その他 ※下の□の中にその内容を自由に書いて下さい。

2 自然学校に行く前に不安だと思っていたことすべてに○をつけてください。

- () 豊かな自然の中で生活すること
() バスに乗って移動すること
() 家族と長い間はなれて、クラスの友だちといっしょに生活すること
() 先生以外の人(リーダーさん)と生活すること
() 今まで体験したことのないプログラムをすること
() (自然体験・アウトドアクッキング・キャンプファイヤーなど)
() 宿舎で生活すること(お風呂、食事、宿泊など)
() 特になかった
() その他 ※下の□の中にその内容を自由に書いて下さい。

3 自然学校中のことについてお聞きします。

○仲間とのきずなを一番感じたプログラムは何ですか。

○自然の偉大さ・美しさ・すばらしさを一番感じたプログラムは何ですか。

○「がんばった」「やりきった」と一番感じたプログラムは何ですか。

○自然学校中に友だちと過ごしたときの気持ちに近いところに○を書いてください。

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
楽しかった					
どちらかといえば楽しかった					
どちらかといえば楽しくなかった					
楽しくなかった					

→うら面に続きます。

4 自然学校を終えて、どのように感じていますか。次の①～⑭の質問について、自分の気持ちに一番近いものに○をつけてください。

	そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない
①自然学校は楽しかった				
②自然のすばらしさや美しさ、偉大さを感じることができた				
③家族への感謝の気持ちが前よりも強くなった				
④家の中で、自分の身の回りのことは自分でできるようになった				
⑤家の手伝いをするようになった				
⑥今までできなかったことにチャレンジする気持ちが強くなった				
⑦「自分はこれならできる」と自信がもてるようになった				
⑧思いどおりにならなないことがあっても、気持ちを調整できるようになった				
⑨自分からすすんであいさつしようとする気持ちが強くなった				
⑩みんなの前で自分の考えがはっきりと見えるようになった				
⑪初めてのことを自分からやってみようという気持ちが強くなった				
⑫クラスや家の人との約束が守れるようになった				
⑬周りの人が困っていると、助けようとする気持ちが強くなった				
⑭友だちへの思いやりの気持ちを持て生活ができるようになった				
⑮友だちと協力しあって活動しようという気持ちが強くなった				
⑯一人でいるよりみんなといえる方が楽しいという気持ちが強くなった				
⑰クラスのみんなのよいところを見付けることができた				
⑱自分の役割や係のことはみんなのためになっていると感じることができた				

5 自然学校の宿泊日数はどれぐらいがいいと思いますか。当てはまる日数に○を書いてください。

() 2泊3日以下 () 3泊4日 () 4泊5日
() 5泊6日 () 6泊7日以上

ご協力ありがとうございました。

【保護者用アンケート】

保護者の皆様へ

兵庫県内の全小中学校で実施している「自然学校」は今年で30年目をむかえます。このアンケートは、自然学校に参加した児童とその保護者及び教員の皆さんに、自然学校のことをお聞きすることで、成果と課題等についての分析を行うことを目的としています。

質問には「○」を付ける質問と、自由記述で答える質問とがあります。お手紙をおかけしますが、ご協力をお願いします。

なお、回答いただきました調査票は、学校へ提出願います。

※2人以上の児童が参加した場合は、児童1人につき1枚、アンケートを提出願います。

5年生児童の性別（男・女）

I 回答いただいている保護者の方ご自身のことについて、お尋ねします。

- 1 あなたは小学校5年生の時、兵庫県の「自然学校」に参加しましたか。

ア 参加した
イ 参加していない

II 自然学校にお子様が発見する前の気持ちについて、お聞きします。

- 1 自然学校に出発するお子様を見送った時の気持ちとして、一番近い番号に○をつけてください。

成長に期待していた	←	1	2	3	→	心配だった

- 2 自然学校を通して、お子様の成長面で期待していたことはどのようなことですか。次の中から、もっとも強く思っていたことを1つ選び、○を付けて下さい。

ア 規則正しい生活をする中で、基本的な生活習慣を身に付けること
イ 体験活動等により、自分から進んで取り組もうとする自主性を身に付けること
ウ 自分の力がまを伸ばし、友達と仲良く生活することで協調性を身に付けること
エ 自然のすばらしさや神秘とふれあうことで、豊かな感性を身に付けること
オ 保護者と離れ友達と共同生活することで、自立心を身に付けること
カ ア～オ以外で期待していたことがあった一内容
キ 期待していたことはなかった

- 3 自然学校で心配に思っておられたことはどのようなことですか。次の中から、もっとも強く思っていたことを1つ選び、○を付けて下さい。

ア 熱気、アレルギ、乗り物酔い、生野など、身体に関すること
イ いじめられることはないかなど、友人との人間関係に関すること
ウ 先生やリーダーの方々に指導されることはないかなど、行動面に関すること
エ 自分の身の回りのことを自分でできるかなど、生活面に関すること
オ 山登りについていけないかなど、プログラムの内容に関すること
カ ア～オ以外で不安なことがあった一内容
キ 不安なこととはなかった

一画面に填寫します

【保護者用アンケート】

III 自然学校から帰った後のお子様の様子の様子について、お聞きします。

- 1 自然学校から帰ってきたお子様はどのような様子でしたか。次の①～⑩の質問について、お子様の様子として一番近いものに○をつけてください。

	そう悪い	どちらかといえば、そう悪い	どちらかといえば、そう悪い	そう悪い
① 自然学校は楽しかった				
② 自然のすばらしさや美しさ、偉大さを感じることができた				
③ 家族への感謝の気持ちが前よりも強くなった				
④ 家の中で、自分の身の回りのことは自分でできるようになった				
⑤ 家の手伝いをするようになった				
⑥ 今までできなかったことにチャレンジする気持ちが強くなった				
⑦ 「自分はこれならできる」と自信がもてるようになった				
⑧ 思いどおりにならないことがあっても、気持ちを調整できるようにになった				
⑨ 自分からすすんであいさつしようとする気持ちが強くなった				
⑩ みんなの前で自分の考えがはっきりと見えるようになった				
⑪ 初めてのことを自分からやってみようという気持ちが強くなった				
⑫ クラスや家の人との約束が守れるようになった				
⑬ 周りの人が困っていると、助けようとする気持ちが強くなった				
⑭ 友達への思いやりの気持ちを身につけて生活ができるようになった				
⑮ 友達と協力しあって活動しようという気持ちが強くなった				
⑯ 一人でいるよりみんなといえる方が楽しいという気持ちが強くなった				
⑰ クラスのみんなのよいところを見付けることができた				
⑱ 自分の役割や係の仕事をみんなののためにできていると感じることができた				

- 2 自然学校の宿泊日数は子どもの成長にとってどれくらいが適当だと思えますか。当てはまる日数に○を書いてください。

() 2泊3日以下 () 3泊4日 () 4泊5日
() 5泊6日 () 6泊7日以上

IV 自然学校について学校にお願いしたいことがあれば、下に自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。

【教員用アンケート】

自然学校で児童を引率された先生方へ
兵庫県内全小学校で実施している「自然学校」は今年で30年目をむかえます。このアンケートは、自然学校に参加した児童とその保護者及び教員のみなさんに、自然学校のことをお聞きすることで、成果と課題等についての分析を行うことを目的としています。
質問紙には「○」を付ける質問と、自由記述で答える質問とがあります。お手数をおかけしますが、ご協力をお願いします。

1 自然学校に出発する前の事前指導についてお聞きします。指導にあたり、もっとも重点を書いたものに○をつけてください。

- ア 子どもの自主的な活動を促す取組を事前学習で行った。(しおり作り・係活動など)
イ 「計画シート」などを取り入れた活動取組を重視した事前学習を行った。
ウ 活動全体を通して一貫したテーマ性を設定して事前学習に取り組んだ。
(命のつながり・食育・心の成長など)
取り組んだテーマをお書きください。

エ その他

2 自然学校を通して、子どもたちの成長に効果的だった取組は何ですか。ア～カから当てはまるものすべてについて、具体的な内容をお書きください。

ア ゆとりのある滞在型プログラムで失敗体験を成功体験へつなげていく取組

イ 困難を乗り越ええるプログラムやグループ活動を取り入れたプログラム

ウ 自然に触れ、命の大切さに気づくようなプログラム

エ 地域人材(ゲストティーチャー)から学んだことを生かしていけるようなプログラム

オ 通達の時間や総合的な学習の時間の時間を確保した取組

カ その他

→裏面に続きます

【教員用アンケート】

Ⅲ 自然学校から帰った後の子どもたちの様子について、お聞きします。

1 自然学校から帰ってきた子どもたちはどのような様子でしたか。次の①～⑭の質問について、子どもたちの様子として一番近いものに○をつけてください。

	それ以上	どちらか一方	どちらか一方	そうでもない
① 自然学校は楽しかった				
② 自然のすばらしさや美しさ、偉大さを感じることができた				
③ 家族への感謝の気持ちが前よりも強くなった				
④ 家の中で、自分の身の回りのことは自分でするようになった				
⑤ 家の手伝いをするようになった				
⑥ 今まででできなかったことにチャレンジする気持ちが強くなった				
⑦ 「自分はこれならできる」と自信がもてるようになった				
⑧ 思いどおりにならないことがあっても、気持ちをなおさえるようになった				
⑨ 自分からすすんであいさつしようとする気持ちが強くなった				
⑩ みんなの前で自分の考えがはっきりと言えるようになった				
⑪ 初めてのことを自分からやってみようという気持ちが強くなった				
⑫ クラスや家の人との約束が守れるようになった				
⑬ 周りの人が困っていると、助けようとする気持ちが強くなった				
⑭ 友だちへの思いやりの気持ちを持って生活ができるようになった				
⑮ 友だちと協力しあって活動しようという気持ちが強くなった				
⑯ 一人でいるよりみんなという方が楽しいという気持ちが強くなった				
⑰ クラスのみんなのよいところを見付けることができた				
⑱ 自分の役割や係の仕事はみんなのためになっていると感じることができた				

2 自然学校の宿泊日数は、子どもの成長にとってどれくらいが適当だと思いますか。当てはまる日数に○を書いてください。

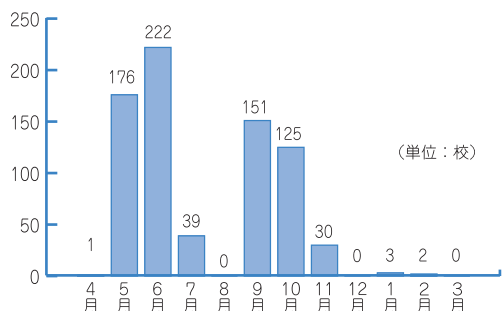
() 2泊3日以下 () 3泊4日 () 4泊5日
() 5泊6日 () 6泊7日以上

ご協力ありがとうございました。

2 自然学校の実施状況について

(1) 実施月について

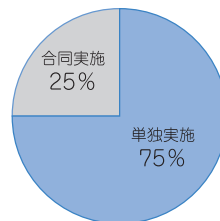
【平成30年度】



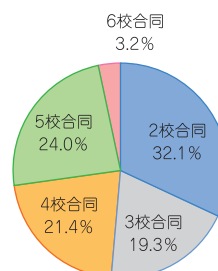
1学期中の5月、6月に実施する学校が半数以上(53.1%)となっています。この傾向は、過去4年間の実績から変化は見られません。

(2) 実施形態について

【平成30年度 実施状況】

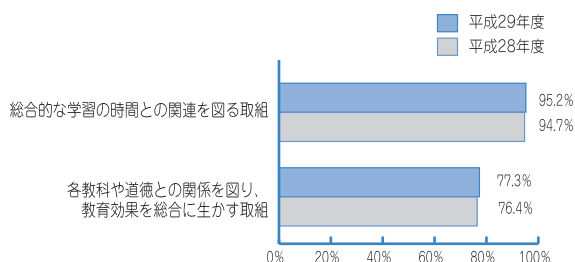


【平成30年度 合同実施状況】

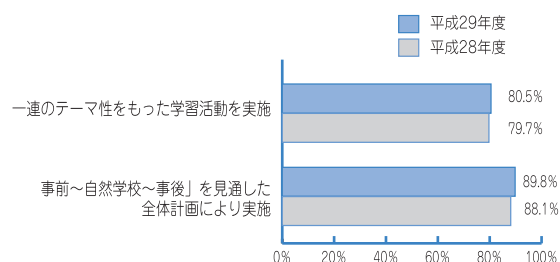


単独で実施している学校の割合は、年々微増しています。(H27/73.6%) 合同実施校数の割合についてはここ数年大きく変わりません。

(3) 自然学校と他の教育活動との関連を図る取組の充実について

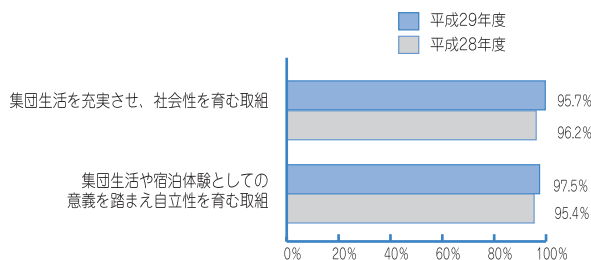


(4) 「事前・事後の学習活動の一層の充実」について



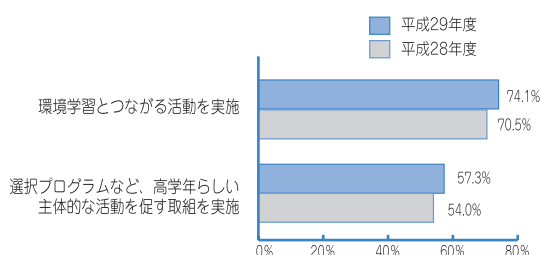
- 「総合的な学習の時間との関連を図る取組」については、ほとんどの学校で取り組まれている一方で、「各教科や道徳との関係を図り、教育相互に生かす取組」については今後改善の余地があると思われます。
- 「事前・事後の学習活動の一層の充実」については、二項目のいずれも割合が高くなっており、各学校で事前事後の活動の充実が進められていることが分かります。

(5) 「社会性や自立性等を育むための集団活動の充実」について

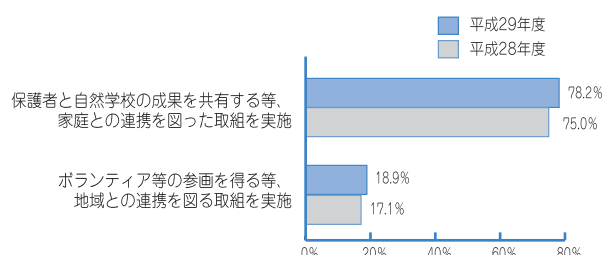


- 子どもたちの自立性や社会性を育む取組は、各学校で充実した取組が行われていることが分かります。
- 主体的な活動を促す取組について、今後も工夫改善を図る必要があると思われます。

(6) 「子どもの成長過程を踏まえた体験活動の充実」について



(7) 「家庭や地域との一層の連携を図る取組の充実」について



3 県立南但馬自然学校の取組から見た自然学校の成果

(1) 平成30年度利用校自然学校実施報告書より（抜粋）

〈利用校の指導者による自由記述〉

達成感

カヌー体験、竹田城跡登山、キャンプファイヤー、野外炊事など自然の中で活動し、学校では行えない自然学校ならではの体験活動を通して、最後までやり抜いた達成感や成就感を味わわせることができた。

協調性

最後の振り返りでは多くの児童の口から「仲間と協力することで」や「友達と支え合って」など言葉で理解していた「絆」を、実感を伴った「絆」へと変わっていく様子が見られた。

自立

親元を離れて集団の中の一員としてどう行動すべきかを考えながら生活することで、子どもの自立性が高まったように感じる。子ども自身も5日間、自分でやり抜いたことが自信になっており、学校生活の様々な場面で出発前と少し違った自信を持つ姿がうかがえた。

キャリア教育との関連

キャリアパスポートを活用して、事前に自分が何の役割で、どのように活動に関わるのかを考え、事後に振り返ることで、自分の今後の生活にどのようにいかしていけるかを考えることができた。

自然とのふれあい

普段の生活では、自然とふれあう機会が少なくなってしまう子ども達が、自分達から積極的に自然に関わっていかうとする姿が見られた。初日に実施した、自然発見!ウォークでサワガニを見つけ、それから毎日のように探しに行っていた姿が微笑ましかった。

連携

他の小学校と連合で実施し、班編成を合同にしたため、たくさんの新しい友達関係が生まれた。小学校間の連携、中学校への円滑な接続の観点からもとても意義があった。

集団としての高まり

集団活動をすることで、仲間との交流を深め、責任ある行動、規律ある行動をとり、集団生活をする上で何が大切かを学ぶことができた。

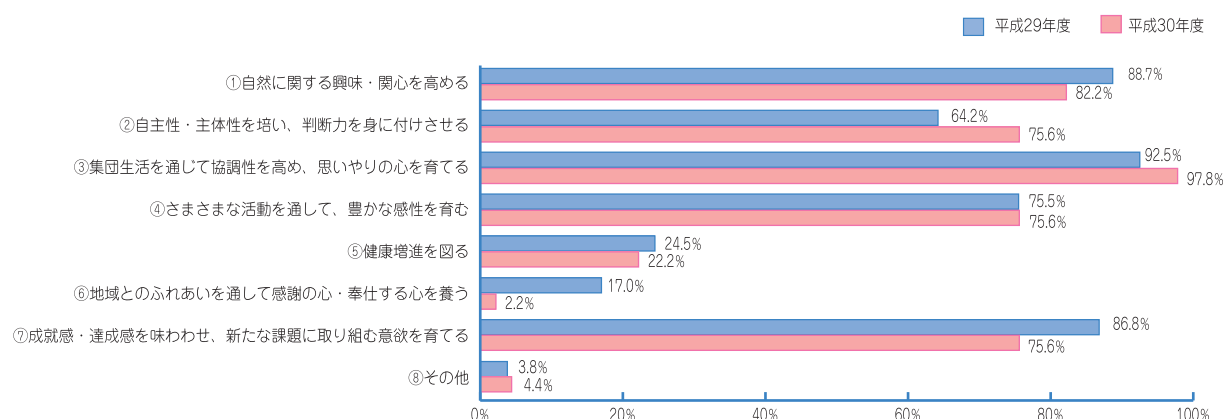
その他

達成感を味わえたことや親への感謝の気持ちが芽生えたことなど、様々な児童の成長を感じている。自然学校後の音楽会でもその成果がみられた。

(2) 自然学校のねらいの達成状況について

※南但馬自然学校「どんぐり73号」より

平成30年度、利用校が提出した自然学校実施報告書にある、南但馬自然学校が設定した「自然学校のねらい」をまとめると下図のようになった。このグラフは、7つの項目について「十分に達成できたと思われる」と回答があった項目を全体に対する割合で示したもので、上段が平成29年度、下段が平成30年度の結果となっている。平成29年度と比較して達成度の向上が顕著な項目は「②自主性・主体性を培い、判断力を身に付けさせる」であり、11.4%高くなっている。この結果から、改訂された学習指導要領に示されている「主体的・対話的で深い学び」を踏まえ、プログラム編成や指導者の児童への働きかけ等に工夫があったことが考えられる。



(3) 平成29・30年度南但馬自然学校調査・研究委員会自然学校についてのアンケート

児童アンケート

平成29年度実施状況

- 752校 625団体（単独561校 合同191校）
- 48,693名参加

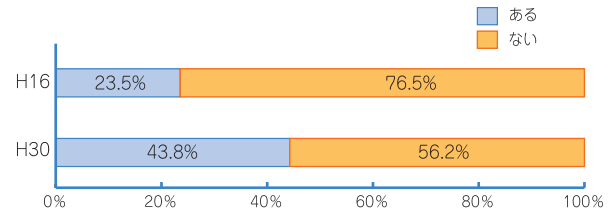
<施設利用状況>

- 国立70校 県立144校 市町立302校
- 民営等297校

<支援体制の状況>

- 技術指導員 947名 ○指導補助員 2,962名
- ボランティア 140名 ○救急員 961名
- 保護者負担額の平均 8,585円
- 事前指導 689校 ○事後指導 742校

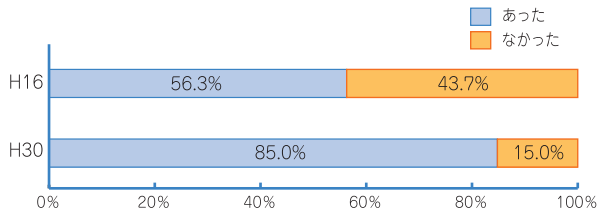
自然学校をきっかけにやり始めたことで、現在も続けていることがありますか。



<続けていること>

- みんなで協力すること
- 大きな声であいさつをする、ありがとうということ
- 自分の意見を発表すること
- 友達を大切にすること
- ゲームをする時間を少なくしていること

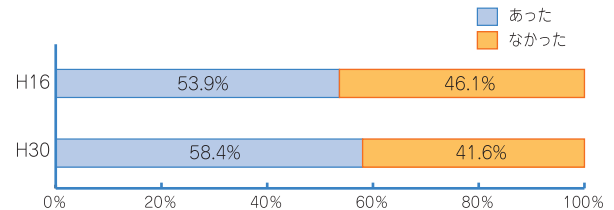
自然学校の中で自分で自分をほめたいことがありましたか。



<ほめたいこと>

- 活動を最後までやりきったこと
- つらいと思ったことでも、少しがまんしてやったこと
- 友達と相談したり協力したりして活動できたこと
- 嫌いな食べ物もがんばって食べたこと
- 初めて宿泊できたこと

自然学校で、感動したことがありましたか。

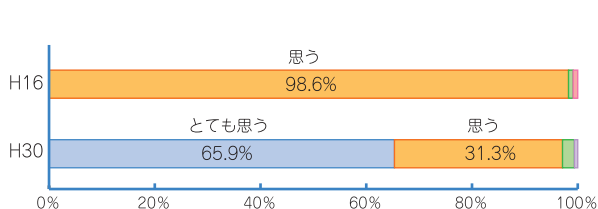


<感動したこととその理由>

- 星空観察**
家の周りではなかなか見えないけれど、たくさん見ることができた
- モリアオガエルの観察**
普段見られない卵を見ることができた
- 朝来山登山**
登り切った後の達成感と、雲海がきれいだった
- リーダーとの交流**
一緒に遊んでくれたから別れるのがさみしかった
- キャンプファイヤー**
目の前で見る炎は、すごく迫力があつた

保護者アンケート

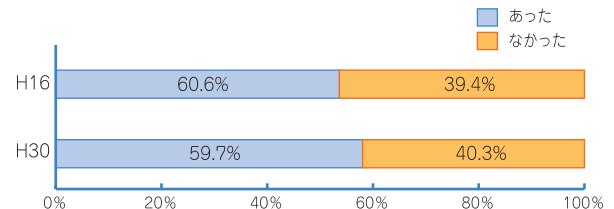
自然学校を経験させてよかったと思いますか。



<よかったと思う理由>

- 普段体験できないことができた
- 親元を離れて集団生活で自主性や協調性が養えた
- 楽しい体験だった
- 友達とのつきあい方を学んだ
- 自然とゆったりふれあえた

自然学校をきっかけにして、子どもが変わったと思われることがありましたか。



<変わったと思うこと>

- 自信がつき、たくましくなった
- 自分のできることは自分でできるようになった
- 友達関係等のつきあい方が上手になった
- 家の手伝いをするようになった
- 物事に積極的に取り組むことができるようになった

※詳細については、平成29・30年度県立南但馬自然学校研究紀要をご覧ください。

4 自然学校関連冊子について

自然学校の歴史や体験プログラム等の資料が充実！

兵庫県教育委員会事務局義務教育課がこれまで作成している自然学校に関連する冊子、資料等は、以下のホームページにて掲載しています。

義務教育課HP

<http://www.hyogo-c.ed.jp/~gimu-bo/index.html>

自然学校事業のページのQRコード→



H20



生きる力を育む自然学校

自然学校の一層の充実を図るための「6つの方策」がまとめられています

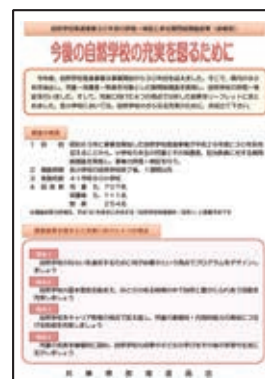
H21



自然学校実践事例集

6つの方策と弾力的な実施のあり方を具体的な実践事例として示しています

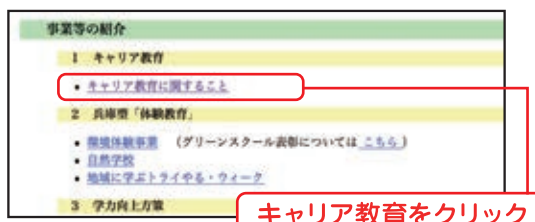
H29



今後の自然学校の充実を図るために

質問紙調査を評価・検証し、今後の充実に向けた4つの視点で分析した概要を掲載しています

キャリア教育の視点から



キャリア教育をクリック



ひょうごキャリア教育指導事例集

キャリア教育の視点から、自然学校のプログラムを捉え直し、児童の基礎的・汎用的能力の育成につなげます。

参考

自然学校実施の参考となる活動事例やデータが掲載されています

県立南但馬自然学校HP

<http://www.shizengakko.jp/schoolguide.html>

H27～28



平成27・28年度研究紀要

火体験、木（竹）体験に重点をおいた自然学校プログラムの開発と有効性を検証しています。

H30



自然学校ガイドブック

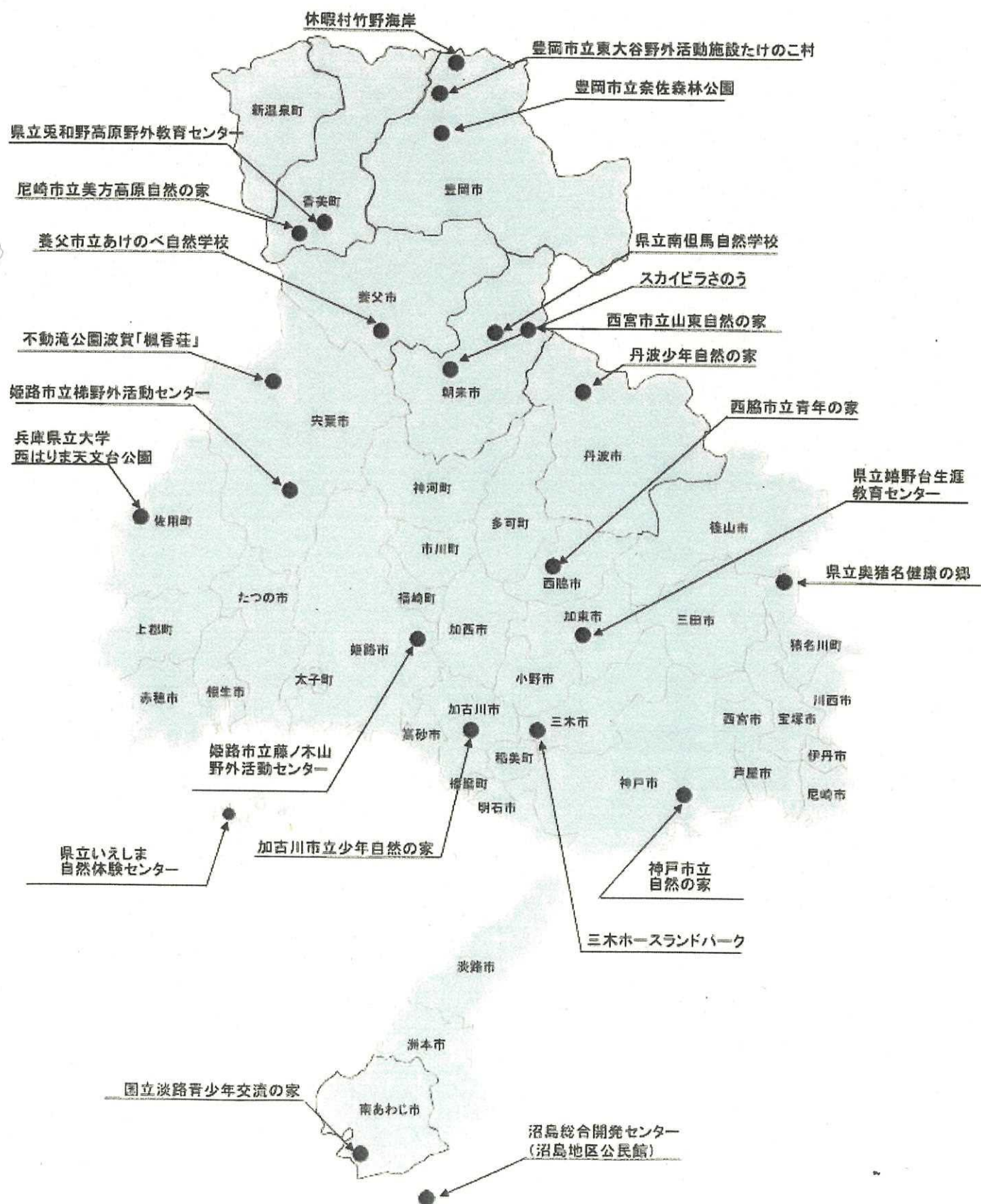
自然学校の充実をめざして、自然学校のプログラム編成（プログラムデザイン）を中心に、自然学校を運営するポイントやQ & A等、基本的な手立てをまとめています。

国立青少年教育振興機構HP

<http://www.niye.go.jp/>

5 体験活動実施施設紹介

○平成30年度 自然学校推進事業 利用野外活動施設（国・県・市町立）



自然学校活動プログラム指導資料

平成31(2019)年3月発行

編集発行 兵庫県教育委員会

所在地 〒650-8567 神戸市中央区下山手通5丁目10番1号

電話 (078) 341-7711(代表)